東京歯科大学同窓会会報　第383号

目　　次

グラビア　千葉校舎30周年
巻 頭 言……1
お知らせ……2～4
会　　務……5～6
理事会のうごき……6～7
ゴルフ大会……8～10
東日本大震災対策部会……11～20
渉　　外……20～21
学　　術……22～24
保　　険……25～27
母校だより……28～31
支部のうごき……32～38
ふるさと自慢……39
クラス会だより……40～42
OB 会・グループ・サークルだより ……43
庶務日誌……44
逝去会員……45
へんしゅうこうき……46

（表紙　河原俊朗）

千葉校舎30周年

30年前の千葉校舎

千葉校舎30周年を記念して

昭和56年９月に開院した千葉病院は今年で30周年となりました。ここを卒業した同窓は，14,651名のうち4,146名を占めるまでになっています。ところで，掲載写真は千葉校舎を見慣れている人には何かおかしいと感じることでしょう。この写真は30年前千葉校舎開院前の写真です。植込みの木々はまだ細く小さい状態です。埋め立て地にこれだけの木を植えてみんな枯れてしまうぞという人もいましたが，現在見事に育っています。今回のグラビアは30周年を記念して当時保存科の医局長であった昭和46年卒角田正健先生にお願いして当時の御苦労などを書いていただきました。

開院以来30年を経過した千葉病院の現況

東京歯科大学千葉病院は，昭和56年９月１日午前９時の開院式に引き続き，９時30分受付・10時診療開始でスタートした。式典の最中にも次々と患者は詰めかけ，受付を待つ長蛇の列が正面玄関のロータリーに続いた。保存科では100組の診査用具のセットを用意したが足りず急遽追加し，午後２時頃にやっと予診が終了した生々しい記憶が今でも蘇る。

驚いたことは，患者さんの大学病院に対する認識が水道橋の患者さんとは著しく違うことでした。スーパーの開店と同じ感覚で，大きな歯医者ができたから行ってみようでした。したがって，教育・研究機関であることはあまり理解されず，時間が掛かる，待たされる，処置が遅いなどの苦情が殺到し，その対応に追われる毎日であったが，稲毛の地に千葉病院が根付くには10年掛かるとの思いで医局員は頑張った。未だに残念に思えることは，患者とのトラブルの回避に神経を使うあまり，学生が行う医療行為をかなり内輪に制限したことである。時代が変わったと言えばそれまでであるが，東京歯科大学の伝統であった臨床参加型の臨床実習から一歩引いた状況となり，年々その傾向が強くなったことである。

開院当初は，保存科・口腔外科・補綴科・矯正歯科・小児歯科・歯科麻酔科・放射線科・内科の８診療科でのスタートであったが，30年経過した現在では総合診療科（平成14年）・スポーツ歯科（平成14年）・口腔インプラント科（平成17年）・心療歯科（平成17年）・摂食嚥下リハビリテーション地域歯科診療支援科（平成20年）の５診療科が増設されている。また，平成13年からは専門外来が各診療科に開設され，現在では口臭・顎変形症・リラックス治療・ペインクリニック・障害者歯科・口腔腫瘍・唇顎口蓋裂・ドライマウス・味覚異常・金属アレルギー・セカンドオピニオン・顎関節・急性期神経機能修復の13専門外来が患者を受け入れている。

開院初期の昭和57年度と平成22年度の病院概要を比較してみると，外来患者数は１日平均457人から941人と２倍強に増加しており，多い日は1,100人を超すこともある。レセプト件数は月平均3,951件が11,459件と2.9倍に増え，診療収入は８億円弱から24億円強と3.04倍に増加している。病院内には，高度の歯科医療と安全・安心の医療を提供するための医療安全管理室や，地域の医療機関との連携を推進し機能分担を促進するための医療連携室が設置されている。また，良質で高度な医療を提供するために，病院倫理委員会・個人情報保護委員会・感染予防対策委員会など様々な委員会が機能している。大学の水道橋移転後も，地域の中核病院として千葉病院の役割は変わらず，重責を担うであろう。

（昭和46年卒　角田正健 記）

巻　頭　言

「若いパワー」

事業推進部常任理事

山　本　英　之

「変革と発展」を目指して邁進してきました大山執行部２期目は，早くも最終コーナーにさしかかって参りました。あと，残るは最後の直線，11月の評議員会において機構改革案をご承認頂けるかどうかというところまで来ました。

事業改革については昨年度の評議員会で事業計画が一足早く承認され本年度からスタートしています。その中で今までの学術部は事業推進部（保険部と学術部が統合して保険委員会，学術委員会，大学・同窓連係委員会，シンクタンク委員会，若手研修委員会の５委員会として成り立っている）に取り込まれ，各委員は保険委員会以外の各委員会と学術委員会を兼ねて新たに活動をしています（保険部も同様）。

学術委員会の前身の特別委員会が立ち上り，TDC 卒後研修セミナーが開催されて36年目，1994年には特別委員会から同窓会学術部に企画運営が替わり，今振り返れば，この時が学術委員に立ちはだかった改革の最初の“山”と思われます。その後，1998年に経団連会館から会場が血脇記念ホールに移りました。そして，その前後２～３年間はセミナー内容の検討が喧喧囂囂行われ，2001年より現在の実習セミナーやディスカッションセミナーが主体に行われように成りました。この頃が第２回目の“山”で，その後が今回の改革，第３回目の“山”と思われます。

TDC 卒後研修セミナーは，発足当初「総合的な視点にたった歯科診療」を企画主旨とし，臨床家の発想による臨床家のためのセミナーを目指していました。そこでは，総合的な視野で学ぶことの大切さを主張してきました。このことは「タテ糸・ヨコ糸論」と学術委員の中で呼ばれていた考え方です。あと，セミナーを継続している中で歯科疾患を考えるにあたって２つの「芯」が出来上がりました。１つは，歯科疾患は時間の経過とともに変化する疾病，つまり「慢性的疾患」であるということ，もう１つは，口腔内はもちろんその患者さんを取り巻く背景をも含むと一人ひとり異なっているため，その人その人で対応が異なる「個の多様性」があるということです。今までの２つの“山”とも，この継続事業の中で培ってきた２つの「芯」と「タテ糸・ヨコ糸論」の基本姿勢がしっかりしていたために今までの“山”も何とか越えられて来たと思います。

事業推進部に含まれてからは，今まで以上に仕事量が増えたにも関わらず，委員内の研修活動が活発となり毎月若手委員が症例を持ち寄り検討会を行っています。その場には，卒後間もない委員以外の勤務医の先生や水道橋病院の研修医や医局の先生方も時々参加して，執行部が掲げています若手同窓支援の一端を担っている様にも映ります。この若い委員の先生方のパワーと今まで培った２つの「芯」，そして「タテ糸・ヨコ糸論」の基本姿勢があれば今回も必ずこの目の前の“山”を乗り越えられると思います。

学術委員会に限らず各委員会は，若い委員のパワーでこの改革に積極的に取り組んでいます。この「若いパワー」こそ，大山執行部の目標の一つであります若手同窓に魅力ある同窓会への改革の原動力であることを確信しています。

お　知　ら　せ

理事会より

●平成23年９月16日より同窓会事務局の業務時間が変更となりましたので
お知らせいたします。

業務時間　　９：30～18：30　昼休　12：30～13：30
休 業 日　　土曜・日曜・祝祭日　（原則として）

同窓会事業・行事

●平成23年度東京歯科大学同窓会評議員会・定時総会
と　き　平成23年11月26日（土）
ところ　如水会館（千代田区一ツ橋２－１－１）

●TDC 卒後研修セミナー2011プログラム
卒研セミナー
№5　実習セミナー
『床型装置と咬合育成』
～介入時期と介入方略～　　11月27日（日）

問い合わせ先：東京歯科大学同窓会学術委員会　Tel. 03－5275－1761

地域支部連合・支部関係

●支部長交代
平成23年６月11日付
八南支部　　浮地　文夫 氏（昭44卒）
　　前支部長　　池田　康彦 氏（昭42卒）

母校関係行事・案内

平成24年度　東京歯科大学　入学試験情報

入学種別	募集人員	出願期間(必着)	試験日	合格発表日	会場
推薦(指定校含む)	約45名	11月１日(火)～11月８日(火)	11月12日(土)	11月15日(火)	東京会場（東京歯科大学水道橋校舎） 大阪会場（天満研修センター） 福岡会場（TKP 天神シティセンター）
帰国子女・留学生	若干名				
編入学 A	若干名				東京歯科大学水道橋校舎
学士等特別選抜 A	若干名				
一般入試Ⅰ期	約50名	12月16日(金)～１月27日(金)	２月２日(木)	２月４日(土)	東京会場（東京歯科大学水道橋校舎） 大阪会場（天満研修センター） 福岡会場（TKP 天神シティセンター）
センターⅠ期	13名				
一般入試Ⅱ期	約15名	２月21日(火)～３月６日(火)	３月10日(土)	３月13日(火)	東京歯科大学水道橋校舎
センターⅡ期	５名				
編入学 B	若干名				
学士等特別選抜 B	若干名				

※編入学 A・B は，２年次に編入学

会務アラカルト

各地域支部連合会との話し合い

本年度の地域支部連合会の総会は５月の四国地域支部連合会総会からはじまって６月の東北地域支部連合会，中国地域支部連合会，９月の関東地域支部連合会，北海道地域支部連合会，東海地域支部連合会，10月に入って北陸地域支部連合会，信越地域支部連合会，九州地域支部連合会，そして12月の東京地域支部連合会とつづきます。それぞれの総会に大山会長をはじめ役員がお伺いしてご挨拶，会務の報告をさせていただく機会を与えていただき，心から感謝する次第であります。その準備から当日の運営まで長い時間をかけご苦労されているうえ，ほとんどの地域支部連合会において総会前に支部長との会を準備開催していただき，同窓会改革を進めるうえで大変有意義な意見の交換もできました。また近畿地域支部連合会，関東地域支部連合会，東京地域支部連合会では総会以外にも話し合いの機会を設けていただいたこともあわせ，この場をお借りして重ね重ね感謝する次第であります。

地域支部連合会での支部長と本部役員との意見交換においては，一人一人の支部長（あるいは各支部役員）からいろいろなご意見や要望をゆっくり伺うことができましたし，話しながらそれぞれの地域の特性や事情についてもかなり理解ができてまいりました。またその後の懇親会ではさらに深い部分までお話を伺うことができました。やはりご当地に行って話をうかがう意義は高いと実感しました。さて，秋の評議員会で提案する機構改革では地域支部連合会の役割について以下のようにしております。

支部・地域支部連合会の活性化，

本部―支部・地域支部連合会との連携強化のため以下の役割を提案しています。

(1) 地域支部連合会における支部長会の開催

地域支部連合会会長は，支部長会を地域支部連合会単位に開催し，本部から役員等が参加し意見や要望を本部に反映させるようする。

(2) 評議員の選出

(3) 地域支部連合会会長の任期を本部役員任期とあわせ，原則地域選出理事（役員）として執行部に参加できるようにする。

(4) 各地域との情報交換をもとに継続的に検討と見直しを行い，各地域に応じ納得できる地域支部連合会の役割を目指すものとする。

最初の提案である(1)の地域支部連合会における支部長会の開催については現状において過大な負担が生じることなく施行が可能であり，また連携を強化する上でその意義もきわめて高いということが示唆されました。

地域支部連合会の誕生は

さて，地域支部連合会ですが，現在，北海道，東北，関東，東京，信越，東海，北陸，中国，四国，九州の11連合会からなっています。いろいろな議論の場で，地域支部連合会は何でできたのかという質問がよく聞かれます。同窓会の記録や同窓会報を紐解いてみますと，同窓会会則に地域支部連合会が定められたのは昭和44年11月に開催された評議員会と総会で，翌年の昭和45年からの施行となったことがわかります。同窓会報に紹介された会則の要点では「全国を11地区に分け，それぞれの地域内の支部の連携を密にして本会発展の協力機関としての活動を期待する」とあります。時の会長は福島秀策先生で，この年いろいろな会則変更もありました。特別会員の新設，高齢会員の設定，共済規則の改定，理事定数の増員による地域選出理事の誕生，支部選出評議員の比例代表制の導入，同窓会旗の作成などであります。

地域支部連合会について，評議員会で決まる前，同窓会報昭和44年８月号に「支部連合会について」という題で福島秀策先生がお書きになっております。一部抜粋してご紹介しますと，「私の連合会に期待するところは，同窓会の会則の目的の項にある諸項を達成する上に於て，この会が内部的に強い推進力を持つこと，又支部単独の事業としては困難を感ずるような場合に，適当な支援態勢をとるというような広い意味にあると解釈していただきたい」としています。また「会そのものの運営方は，各地区で種々独自の計画があろうから，それはその地区の自由に任せたいと思う」ともお書きになっ

ており，地域ごとの特性にあわせて運営できる構想であったことが推察できます。

この地域支部連合会の誕生は決して本部主導で始まったものではないようで，それは会則として決まった昭和44年以前から，各地域で連合同窓会として活動があった記録から見ることができます。北海道地域支部連合会では大正４年に同窓会を設立し平成７年に80周年を迎えています。また中国地区連合会も大正，昭和，平成に亘る期間，特に戦中，戦後の激しい時代に情報の交換をしあったとの記録が残っています。昭和23年第一回近畿連合同窓会が開催されています。同じ昭和23年頃，九州歯科医学大会と同窓会がリンクされた形で開催されるようになったとの記録もあります。昭和29年東海４県連合同窓会開催，昭和38年東北地域支部連合会が発足，昭和43年中国地域支部連合会発足，北陸地域支部連合会の第一回総会が開催，昭和44年四国４県の連合会開催の記録が残されています。このように，会則が定まる以前から地域支部連合会は各地域の同窓の先生方の強い思いから誕生し，それぞれ地域にあった支部の連携の形を作っていったようで，その状況を鑑みて会則へと移行したように思われます。

機構改革での地域支部連合会についての提案

さて，提案の中，地域支部連合会の役割の一つに評議員の選出があります。すでにご紹介しましたように，昨年評議員会で提案した改革案では評議員は以前の支部の会員数を単位に選出するところから地域支部連合会の会員数に応じて地域支部連合会が選出するとしています。この選出方法によりますと会員数の少ない支部からは評議員を出せないということになり，昨年の評議員会にお

いて１県１評議員は出せるようにとの強い要望がありました。これらの声にこたえ，“当分の間の経過措置として”，地域支部連合会の会員数をもとに選出する基本は変えず，１県１評議員がでられるよう増員補正をして提案いたします。この経過措置の期間は２年とさせていただきました。しかしこれは単に２年たったら自動的にルールが変わるということではなくその間の期間，各地域において納得のできるものを求めてゆく大切な期間であると考えています。すなわち，その説明として，「ただし，当分の間の経過措置として，各都道府県からは少なくとも１名を原則とする」とは，２年を目途とする。その間執行部と支部および地域支部連合会は目的とする同窓会組織を整えることとし，この経過措置のあり方について，評議員会のあり方とともに，継続的に理事会および評議員会において協議することとする，としております。まず実際に機構改革を行ってみて，不具合の部分をあらため，新たに必要なものを取り入れ柔軟に新しい時代に対応できるようにすることです。この大切な２年間，会員―支部―連合会―本部との情報の共有化，きわめて密なる意見の交換は必須で，そのような意味でも地域意見集約を行っている立場にある地域支部連合会の会長に執行部に入っていただき，どしどし意見を述べていただき，本部を中心としたピラミッド３層構造からより会員に近い位置にある地域支部連合会を要にした機能型でしかも情報共有型の３層機構をめざし，ことし始めた事業改革の成果もながめながら同窓会をとりまく諸問題に対応して行ければと思います。諸問題の大きさ，将来への影響を考えれば，この２年間はむしろ長すぎるかもしれません。

これらの提案は11月26日開催の平成23年度評議員会で議題として上程され審議される予定にあります。

若い先生方の積極的な同窓会活動の参加を期待しています

同窓会では若手同窓に対していろいろな支援を企画しております。これは将来にわたって東京歯科大学同窓会が足腰の強い組織をたもち，大学や同窓を応援するだけではなく，優秀な人材を歯科界におくり社会的な貢献につながるとも期待しております。そのためには，より多くの若い先生方が同窓会活動に理解を深め，活動に参加していただくことが必要です。以下の３つの心得にご協力願います。

・支部に所属します
・会費は毎年期日まで払います
・住所変更等の際は，必ず届けをだします

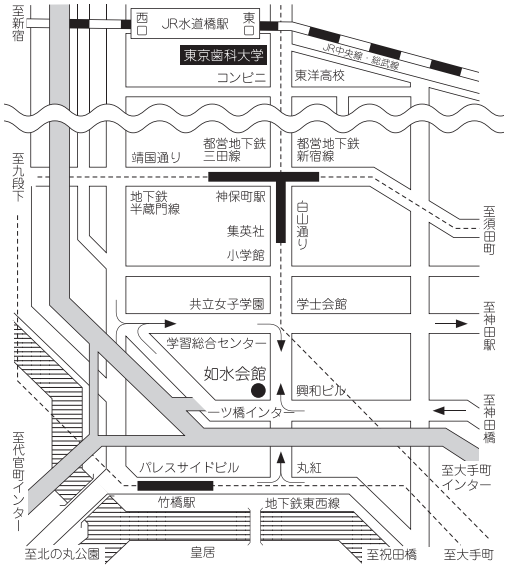
くわしくは同窓会事務局にお問い合わせください。

会　　務

平成23年度東京歯科大学同窓会評議員会
定時総会　懇親会　日程

1．日　時　平成23年11月26日（土）
2．会　場　如水会館　２階　スターホール
　　東京都千代田区一ツ橋２丁目１番１号
　　電話番号　03（3261）1101　（代表）
3．日　程

区　分	時　　間
評議員会	午前10時00分～午後４時00分
定時総会	午後４時10分～午後５時00分
懇　親　会	総会終了後



最寄りの駅からの案内図

平成23年度 東京歯科大学同窓会評議員会
（午前10時00分～午後４時00分）

1．開 会 の 辞
1．点　　呼
1．会 長 挨 拶
1．来 賓 挨 拶
1．議長，副議長選出
1．議事録署名人指名
1．黙　　祷
1．報　　告
　(1)　平成23年度　会 務 報 告
　(2)　平成23年度　会計現況報告
　(3)　東京歯科大学の現況報告
1．議　　事
　第１号議案　平成22年度　経常部収支決算
　第２号議案　平成22年度　特別会計収支決算（同窓会基金，血脇記念基金，共済基金，名簿積立金，退職積立金）
　第３号議案　平成22年度　卒後研修セミナー，卒後研修セミナー積立金収支決算
　第４号議案　平成22年度　時局対策費積立金会計収支決算
　第５号議案　平成22年度　財産目録
　　（監　査　報　告）
　第６号議案　財産（備品）廃棄処分
　第７号議案　機構改革に係る東京歯科大学同窓会会則一部変更を求むるの件
　第８号議案　会務運営に係る東京歯科大学同窓会会則一部変更を求むるの件
　第９号議案　四谷支部と牛込支部の合併の承認を求むるの件
　第10号議案　平成24年度　事業計画
　第11号議案　平成24年度　入会金（現行本学出身の会員5000円，推薦会員50,000円）
　第12号議案　平成24年度　会費（現行18,000円）
　第13号議案　平成24年度　経常部収支予算
　第14号議案　平成24年度　共済負担金（現行3,000円）
　第15号議案　平成24年度　特別会計収支予算（同窓会基金，血脇記念基金，共済基金，名簿積立金，退職積立金）
　第16号議案　平成24年度　卒後研修セミナー，卒後研修セミナー積立金収支予算
　第17号議案　平成24年度　時局対策費積立金会計収支予算
　第18号議案　平成24年度　名誉会員の推薦

第19号議案　役 員 改 選
1．協　　議
⑴　東日本大震災被災同窓への今後の支援について
⑵　会費の過年度分未払いの件について
⑶　その他
1．名誉会員推戴式
1．叙勲，褒章受章者顕彰式
1．閉 会 の 辞

第117回　東京歯科大学同窓会定時総会
（午後４時10分～午後５時00分）

1．開 会 の 辞
1．会 長 挨 拶
1．議長，副議長選出
1．議事録署名人指名
1．報　　告
⑴　平成23年度　会務報告
⑵　平成23年度　評議員会報告
⑶　平成24年度　経常部，特別会計，卒後研修セミナー，卒後研修セミナー積立金，時局政策費積立金会計収支予算
1．議　　事
第１号議案　平成22年度　経常部収支決算
第２号議案　平成22年度　特別会計収支決算（同窓会基金，血脇記念基金，共済負担金，名簿積立金，退職積立金）
第３号議案　平成22年度　卒後研修セミナー，積立金収支決算
第４号議案　平成22年度　時局対策費積立金会計収支決算
第５号議案　平成22年度　財産目録
（監　査　報　告）
第６号議案　財産（備品）廃棄処分
第７号議案　東京歯科大学同窓会会則一部変更を求むるの件
1．協　　議
1．閉 会 の 辞

理事会のうごき

第３回理事会

平成23年７月９日（土）午後２時30分
於　　特別会議室
出席　31名
議長　大山会長

会 長 挨 拶

本同窓会が当番校となり，全国歯科大学同窓・校友会懇話会が今月23日に開催されるため，現在それぞれの部署においてご協力いただいている。

東日本大震災被災各支部では細部に苦慮されている状況だが，この理事会においても問題点を協議いただき，被災会員に対して支援していけるようにご審議を願いたい。

母校学校法人役員交代があったことを報告。

黙　　祷

札幌・谷口良一氏他６名のご逝去を悼み，謹んで哀悼の意を表した。「黙祷」

会務報告および承認

1）平成23年６月15日から12月26日までの日程を報告。
2）各部報告
⑴　総務・厚生部：①平成23年春の叙勲受章者の栄誉に浴された３名の会員を報告し祝意を表した。②地域支部連合会学術講演会助成金の支出について４件報告。③支部・地域支部連合会学術講演会講師派遣交通費の支出について７件報告。④厚生委員会について報告。⑤罹災報告ならびに共済金の支給について報告。⑥ゴルフ大会委員会について報告。⑦情報ネットワークについて報告。⑧母校創立120周年記念事業募金状況について報告。⑨第58回全国歯科大学同窓・校友会懇話会の準備状況について報告。⑩会則検討チームについて報告。⑪東日本大震災対策部会について報告。⑫学年代表者会について報告。
⑵　会計部：①平成23年度予算ついて報告。②平成22年決算書について報告。③平成22年度決算書の監査について報告。
⑶　渉外部：①渉外部委員会について報告。
⑷　広報部：①ホームページ委員会について報告。

⑸　事業推進部：①事業推進部について報告。②学術委員会について報告。③ TDC 卒後研修セミナー2011について報告。④保険委員会について報告。⑤大学・同窓連携委員会について報告。⑥東京歯科大学同窓会フォーラム，インプラントセミナーについて報告。⑦シンクタンク委員会について報告。⑧若手研修委員会について報告。

各地域選出理事報告

1）戸田理事（北海道）

東日本大震災被災者への支援金を北海道各支部へ連合会長名で依頼をした。どのような形になるか決定されていないが，９月の連合会総会で提案，単年度ではなく３年ぐらい続けられるような方向が望ましいと考えていることを報告。

2）高橋理事（東北）

支援に対し謝意を表し，復旧が思うようには進まない現況を報告。

６月に東北地域支部連合会総会が開催され，東北６県協議会では近年にない充実した協議があり終了後，連合会長名で全国会員に対する感謝と引き続きの支援をお願いする声明文の書面を会長へ渡した旨報告。

3）長久保理事（関東）

関東地域支部連合会支部長会において，連合会長が地域選出理事となる件について様々な意見がでてまとめることができなかったが，会則が変更されれば，出来るだけ沿った形を目指したい旨報告。

4）早速理事（東京）

機構改革により変更となる評議員数が東京地域支部連合会で激減となる。執行部として結論が出ていないが，現在６ブロックに分けて運営していることも勘案し今後対処していきたい旨報告。

5）飯島理事（信越）

連合会総会が10月に開催されるので，機構改革の方向性を決めようと考えていることを報告。

6）宮田理事（東海）

東海地域支部連合会総会へ向けての準備委員会で東日本大震災への支援金について色々意見があったので連合会総会に報告したい旨報告。

7）宮本理事（北陸）

理事会資料に対する要望を依頼。

8）井口理事（近畿）

情報ネットワークの効果からか同窓会への支部長の関心が高まっている。次年度は，連合会長が地域選出理事になる予定である。

9）山根理事（中国）

総会が開催されない年度に支部長会を開催，本部から役員出張をいただき信頼関係を作ることは有意義であり，今後の担当者にも引き続き開催要望を伝えたい旨報告。

10）久保田理事（四国）

支部長会，総会が盛会裡に終了，また日歯の生涯研修会に日歯役員の同窓会員が出張され，研修会後も若手会員と懇談・懇親頂きなごやかな雰囲気であったことを報告。

11）濱田理事（九州）

支部長会において①東日本大震災②母校への寄付③連合会長の理事兼任が協議され，会則における「原則として」を強調して九州地域は今までどおりとしたいことが決定したことを報告。

協 議 事 項

1）推薦会員退会願いについて１件承認。

2）罹災共済金の支出１件承認。

3）平成22年度決算について協議の結果，承認。

4）会則検討特別委員会の答申書を受理し，諸調整については会長一任で承認。次回理事会で最終承認する。

5）東日本大震災被災同窓の会費の免除について協議の結果，承認。

6）平成24年度事業計画（案）について協議の結果，継続審議とする。

7）東京歯科大学同窓会役員並びに職員旅費規程について継続審議とする。

8）同窓会職員就業規則改定について承認，施行時期等会長一任。

ご　注　意

最近，東京歯科大学同窓会を装い住所及び電話番号等を聞き出す封書が会員の皆様に送付されています。くれぐれもご注意下さい。

怪しいと思ったときには同窓会本部にご確認下さい。

ゴ ル フ 大 会

東日本大震災チャリティー同窓会主催ゴルフ大会を終えて

本年のゴルフ大会は第１回大会から数えてちょうど40周年にあたりました。今回は特に東日本大震災で罹災された同窓の方々のお力に少しでもなれるようにと，「東日本大震災チャリティー同窓会主催ゴルフ大会」として９月15日(木)，埼玉県武蔵カントリークラブ・豊岡コースにて開催されました。武蔵カントリークラブ・豊岡コースは，平成21年の日本オープン開催コースとしても有名でありますが，日本ゴルフ界における数々の名勝負が本コースで繰り広げられてまいりました。

競技はアンダーハンディの18ホールスストロークプレーで行われ，ハンディキャップはダブルペリア方式で算定しました。当日の参加者は119名で，その内シニア（65歳以上）は58名，女性は９名でした。

今年は９月中旬の開催ということで，例年より清々しいコンディションの中でプレーすることができました。武蔵カントリー倶楽部のコースコンディションの良さは大変素晴らしく，グリーンはもとよりフェアウエーやラフの状態はとても良く整備されておりました。武蔵野の面影を色濃く残す大変美しい林間コースですが，微妙なアンジュレーションとグリーンを囲むバンカーにより，外見からは想像もつかない難しさで，参加された皆様もさぞかし苦労されたことと思います。

懇親会は中野正博総務委員長の司会のもと，同窓会・田原邦昭常任理事の開会のことばに始まり，大会会長・大山萬夫同窓会長ならびに酒井雄学ゴルフ大会委員長の挨拶と続きました。来賓からは学校法人東京歯科大学・金子　譲理事長，東京歯科大学・内山健志教授にご挨拶をいただきました。その後，本日のチャリティーで集まった支援金目録の授与が行われ，被災地を代表して佐藤正矢支部長よりお礼のお言葉をいただきました。さらに同窓会・田原邦昭常任理事より大会関係の報告が行われた後，本大会開催にあたり御協力いただいた同窓会埼玉県支部を代表し成田賢二支部長の乾杯のご発声で懇親会が始まりました。

表彰式は中井英夫競技委員長の競技総評の後，高宮紳一郎競技副委員長による成績発表と賞品授与が行われ，同窓会長杯が一般の部優勝の瀧澤雅一先生に，学長杯が一般の部準優勝の田邊　陽先生に贈られました。シニアの部では優勝の高梨恒一先生に理事長杯が，シニアの部準優勝の藤波　齋先生に千葉病院長杯が贈られました。また水道橋病院長杯のベストグロス賞は原　一雄先生が72ストロークで獲得されました。

さらに女子優勝の佐々木紀子先生には埼玉県支部長杯が授与され，グランドシニア優勝はシニア優勝の高梨恒一先生でした。その他，一般20位までとシニア10位まで，それに飛び賞，ブービー賞などがそれぞれの受賞者に授与されました。

本大会の開催にあたり，大学当局ならびに同窓会本部，同窓会埼玉県支部から多大な協力をうけ賜りました事に，深く御礼申し上げます。さらに大会運営にあたりまして，武蔵カントリー倶楽部ならびに同窓会事務局の皆様のご苦労に厚く感謝申し上げます。

来年の大会は茨城県で９月27日(木)に開催の予定です。より盛大で意義ある大会にする所存でおりますので宜しくお願いいたします。

最後になりましたが，会員の皆様の益々のご活躍とご発展をお祈りいたしまして，ご報告とさせていただきます。

（大会総務委員長　中野正博）

受付にて支援金を募金する参加者

酒井実行委員長から大山会長への支援金の手渡し

優　　勝

瀧澤雅一先生（平成４年卒）

「楽しい一日」

まず，東日本大震災に被災された皆様並びにご親族をお持ちの方に心からお見舞い申し上げます。

今回，同窓会主催ゴルフ大会が開催された武蔵カントリー倶楽部豊岡コースは，2009年に日本オープンゴルフ選手権競技が開催された名門ゴルフコースで，こんなコースでラウンドするチャンスは滅多にないから是非行こうと，同期で一番のゴルフ狂である栗林さんからお誘いを受けました。大学を卒業してから20年ほど経ちましたが，年に１，２度飲みに行くぐらいしか会う機会もなかったので，たまには健康的にふれあうのも良いかと思い，同期の花井君を誘って参加させていただきました。

当日は７時半頃にはクラブに到着しましたが，最終組だったためスタートまで２時間以上もあり，素晴らしいコースを眺めながらゆっくりコーヒーを飲みながら，皆で話していると，もう満ち足りた気分になりました。コースに出ても，ゴルフよりくだらない冗談ばかり言い合っていて，口元の絞まらないままスイングする始末で，コンペに参加していることも忘れる程でしたが，ハンディに恵まれ，優勝してしまいました。これも，スコアのことなど気にせず楽しくラウンドできたことと，林の中に打ち込んだボールを探し出してくれた同伴競技者のおかげだと思います。どうもありがとう。

最後になりましたが，素晴らしいコースで楽しい１日を送ることができましたことを関係者の皆様に感謝いたします。

シニア優勝

高梨恒一先生（昭和34年卒）

「またダブル優勝　健康は宝」

健康のためにゴルフをしていると言っておられる方がいらっしゃいますが，私はゴルフをするために健康に留意して過ごしている積もりです。しかし，５年程前から右脚付け根にいやな痛みを感ずるようになり，その症状が除々に悪化してきました。少々心配になり整形外科を訪ねたところ，先生いわくこれは脊髄管狭窄症です手術をすれば治りますよ，但し，半年程度はゴルフを止めて下さいとのことでした。

半年も止めていたら年寄りの身体は硬くなり動かなくなる怖れがあるので手術はなるべく避けたいと思っていました。

しかし，昨年の５月頃から症状が急に悪化して１ホールラウンドする内に，３～４回腰を屈めるか座るかしないと歩けないという状態になって来ました。丁度その頃，マッケンジー体操（極く簡単で時間も短く続け易い）なるものを紹介されました。早速試してみたところ３～４ヵ月過ぎた頃から痛みとしびれ感が和らぎ順調に快復して来ました。お蔭で多分８回目だと思いますが，この優勝につながったと思っています。私もこの５月に喜寿を迎え，そろそろエージシュートを狙える年頃になってはきましたが，年々衰える飛距離と感性をどう持ち堪えるかが大きな課題です。しかし，幸運続きのこの大会で女神のご加護を頂ければ達成出来るかもしれませんね？来年の大会が楽しみです。

最後に大会関係者各位に感謝し，来年も天候に恵まれますように祈念しています。

佐藤　福島県支部長の挨拶

大会玄関看板

成　績　表

（64歳以下）

順位	名　前	OUT	IN	グロス	ハンデ	ネット
優　勝	瀧澤　雅一	48	48	96	27.6	68.4
準優勝	田邊　　陽	42	43	85	15.6	69.4
3　位	佐藤　正矢	44	46	90	20.4	69.6
4　位	今井　民夫	39	42	81	10.8	70.2
5　位	村上　芳一	47	45	92	21.6	70.4
6　位	栗林　丈人	45	40	85	14.4	70.6
7　位	堀　　正樹	44	44	88	16.8	71.2
8　位	黒澤　珍介	37	38	75	3.6	71.4
9　位	山﨑　眞司	45	42	87	15.6	71.4
10　位	福本　恵吾	49	44	93	21.6	71.4
11　位	浅野　裕之	48	45	93	21.6	71.4
12　位	坂井　　清	42	38	80	8.4	71.6
13　位	原　　一雄	34	38	72	0.0	72.0
14　位	松永　良治	47	41	88	15.6	72.4
15　位	栗林　昭彦	45	41	86	13.2	72.8
16　位	鵜沢　文彦	49	43	92	19.2	72.8
17　位	栃木　茂生	41	45	86	13.2	72.8
18　位	磯野　珠貴	43	43	86	13.2	72.8
19　位	町田　貴敏	39	41	80	7.2	72.8
20　位	園田　省平	45	46	91	18.0	73.0

（65歳以上）

順位	名　前	OUT	IN	グロス	ハンデ	ネット
優　勝	高梨　恒一	43	42	85	14.4	70.6
準優勝	藤波　　齊	45	39	84	13.2	70.8
3　位	齋藤　　哲	49	50	99	27.6	71.4
4　位	鈴木　康夫	53	44	97	25.2	71.8
5　位	馬橋　亟男	45	43	88	15.6	72.4
6　位	矢﨑　秀昭	48	50	98	25.2	72.8
7　位	長久保文夫	47	51	98	25.2	72.8
8　位	成田　賢二	44	41	85	12.0	73.0
9　位	小坂　　肇	54	51	105	31.2	73.8
10　位	中尾　一成	49	49	98	24.0	74.0
11　位	島田　英明	47	44	91	16.8	74.2
12　位	村井　憲一	44	46	90	15.6	74.4
13　位	松村　雄郷	47	53	100	25.2	74.8
14　位	梅津　正喜	48	46	94	19.2	74.8
15　位	森下昭十三	49	44	93	18.0	75.0
16　位	杉原　伸顕	47	51	98	22.8	75.2
17　位	堺　　清一	49	49	98	22.8	75.2
18　位	小倉　　信	49	52	101	25.2	75.8
19　位	谷　　繁信	58	58	116	40.0	76.0
20　位	金山　公彦	48	51	99	22.8	76.2

〔支援のお礼〕

福島県支部より震災支援へのお礼を申し上げます。被災より７ヶ月が経過しましたが，今なお，余震と思われる地震が続いております。

３月11日の地震は宮城県沖が震源でしたが，４月11日，12日は福島県浜通りに震源が近く，とても長い時間ゆっくりと縦に大きく揺れました。いつ天井が落ちてくるか，家の外が安全なのか，このまま部屋に留まるのが良いのか判断がつかず，棚や家具が倒れるのをながめるだけでした。

また，原子力発電所の事故の影響は計り知れない状況で，今後の経済不況や人の流出を覚悟しなければなりません。

銀行やATMが機能しないなか，同窓会員の皆様方から寄せられた支援金が，被災した会員を助け，勇気付けました。

福島県支部では，40名の会員に400万円の支援金を，また45名の会員に300万円の共済金をお届けしました。各年クラス会や各講座などから心温まるご支援をご心配を，お見舞いを多数いただきました。

会員もいくらか元気を取り戻しつつあります。ご支援ありがとうございます。心より感謝申し上げます。

福島県支部　支部長　佐藤正矢

東日本大震災対策部会

つづけよう，同窓のための同窓による支援を！

「東日本大震災から半年が経過しました」，９月をむかえテレビ，新聞，人々の会話の中にも多くの場面でこの言葉が使われました。一つの区切りとは思いませんが，その後の報道の内容も復興が進行中という明るい一面，進まぬ復興と被災者たちの悩みにといった暗い一面など，我々の想像を遥かに超えた多彩で深刻な問題が浮き彫りにされてき始めたような気もします。

東日本大震災　会員罹災報告

平成23年９月14日現在

	罹災件数	罹災状況			
		A	B	C	D
青森県支部	3	0	1	0	2
岩手県支部	3	3	0	0	0
宮城県支部	41	12	14	10	5
福島県支部	46	14	16	6	10
茨城県支部	54	8	17	7	22
栃木県支部	15	0	2	2	11
千葉県支部	6	3	1	0	2
大学支部	5	0	3	0	2
芝　支　部	1	0	1	0	0
深川支部	1	0	0	1	0
その他	1	1	0	0	0
合計件数	176	41	55	26	54

A：自宅または診療所が壊滅的被害を受け，診療までに１週間以上かかる状態，またはライフライン停止，避難などにより一ヵ月以上診療不能
B：自宅または診療所が被害を受け，診療までに３～６日ぐらいかかる状態，またはライフライン停止，避難などにより２週間以上診療不能
C：自宅または診療所が被害を受け，診療までに１～２日ぐらいかかる状態，またはライフライン停止，避難により１週間以上診療不能
D：自宅または診療所が被害を受けたが，診療には支障がない状態，またはライフライン停止，避難などにより４から６日診療不能

東京歯科大学同窓会の会員の先生方も多くの方が被害をうけ，それぞれの地域の中で私たちでは感じられない問題や悩みに直面しながら“今までの普通の生活”をめざしながら一歩一歩前に進むようがんばっていることとお察しします。特に震源地に面している宮城県支部，福島県支部，茨城県支部では多くの会員が被災され，東日本大震災対策部会においても，今後とも継続的な支援をつづけたいと考えており，次期執行部にも引き継いでいきたいと思っております。

東日本大震災支援金報告

“被災された同窓のための支援”を目的に４月７日に東日本大震災支援金窓口を開設しました。お陰様で９月22日現在，振込み件数316件，振り込み総額15,731,577円となりました。316件といいましても，同窓個人，支部，地域支部連合会，クラス会からといろいろな形でご協力いただいているもので，これはまさに同窓全員からのご支援と考え，深く感謝いたしております。

振込件数	**316件**
振込金額	**15,731,577円**
通帳残高	**6,215,757円**

第一回支援金は，６月から７月にかけ，被災が極めて甚大なうちでも，特に深刻な状況にある被災同窓会員６名の方に特別支援金として総額340万円を支給しました。そして一般支援金としてレベルＡの被災報告があった支部に対して，レベルＡとレベルＢの状況から５支部に対して610万円支援させていただきました。第一回支援の総額としては950万円支給となり，振込み諸費用を差し引きまして，現在6,215,757円の通帳残高となっております。第二回支援は10月から11月にかけて残高の８割程度を支給することを考えており，現在，大きな被害をうけた地域の支部長の先生方から支援の方法についてご意見をうかがっております。対策部会では，ご助言をもとに，早急に支給方法を取り決め，二回目の支援を行う予定です。

被災地の今

半年を経過する少し前ですが，８月に気仙沼を再び訪れる機会をもちました。瓦礫は確かになくなっていますが，いまだ被災した建築物は所々にのこり，まわりには新しい建物はなく広々とした荒地のままでした。テレビなど報道で伝えられる復旧・復興とはまったく違うイメージでした。気仙沼で診療をスタートしている同窓諸氏におたづねしますと，「患者さんは戻ってこられています。数も増えてきていますが，今一部負担金を払わないでよいので多いのと，仕事がなく時間があるので来れるので，だんだん秋になると減りだすのでは……」のように歯科の受療状況は本質的なものではなく，将来地域の口腔環境の悪化はもちろん，診療環境維持も大変な状況になることも心配されていました。町はなくなり，家もなくなり，その上地

盤が沈下し満潮時には道が水の下になってしまう現実の中では，県や東北地方全体としての復興がないかぎり被災された先生方のご苦労そして目に見えない精神的なストレスは続くのだと強く感じました。

また，福島の方でも原発事故のための影響でまだまだ深刻な状態ですし，避難されているお二人の同窓もその生活環境は全く改善されていません。福島県の佐藤支部長のお話でも，地震と津波，原発事故，風評被害で福島県は大変な状況にあり，続けてのご支援をお願いしたいとお話されていました。対策部会では，被災地の先生方から経験談を含めいろいろなお話をいただき，同窓会報に紹介してゆく予定ですので，支援の輪をより強く，より大きくしていただくようお願い申し上げます。

同窓会チャリティゴルフ大会からご寄付をいただきました

今年で40周年を迎える同窓会ゴルフ大会が平成23年９月15日「東日本大震災チャリティ同窓会主催ゴルフ大会」として開催されました。その内容については８～10ページに掲載しています。当日チャリティボックスに参加者より多額のご寄付をいただきました。またゴルフ委員会では，当日経費を節約してさらにご寄付を捻出していただき，合計400,000円を東日本大震災支援窓口に贈っていただきました。誠に有難うございます。

・大会経費から214,208円
・当日のチャリティー185,792円

当日福島県支部長の佐藤正矢先生が福島県支部の役員の先生方と一緒にゴルフ大会に参加していただけました。懇親会では，佐藤先生より同窓からの支援へのお礼，今後とも被災者へ共感を持っていただけるよう又続けてのご支援のお願いをご挨拶で述べられました。特に福島県におられる先生方のご苦労をお話され，それに対して参加された先生方から是非がんばってほしいと満場あつい拍手で応援を頂きました。対策部会といたしまして，今回のご寄付に対し，深く感謝をいたしております。

福島県から福井県に避難された川崎先生が北陸地域支部連合会総会に出席

福島第一原発から５キロの地に診療所と自宅を構える川崎良輔先生（昭和48年卒）は避難を余儀なくされ福井県に移りましたが，このたび金川直博北陸地域支部連合会会長，伊藤　透福井県支部長，加藤成俊石川県支部長，宮本宣良地域選出理事のお取り計らいで10月１日開催の北陸地域支部連合会総会にご招待されました。ご挨拶では，同窓からの熱いご支援に対するお礼，そして大震災後のご苦労などお話しされました。懇親会でいろいろなお話をうかがう機会を得ましたが，ふるさとでの生活に戻ることのむずかしさ，体調面の悩み，仕事面の悩み，経済的な悩み，生活上の制限などお聞きしましたが，更なる問題も身辺にはいっぱいあるようで，そんな状況にある先生を同窓がご招待して色々な方とお話できる機会を作ってくださったことによりどれだけ元気づけられたかと，今回の北陸地域支部連合会のご配慮に対し心から敬意を払いたいと思います。

さて，震災から半年が経過しまして，支援のあり方は震災直後とは少しずつ違ってきたのかと思います。直後の興奮状態の中での支援とは異なり，半年たって真の支援とはなんであろうかと模索する同窓も決して少なくないと思います。対策本部としては，そのためにも，いろいろな経験談，そして大震災に関連するお話を紹介してゆきたいと考えております。今回，福島県支部の川崎良輔先生に体験談を依頼しました。また，宮城県支部では支部便りに会員の先生方の大震災体験談を掲載の準備をしておりました。小野支部長にお願いしまして，そのうちの３編を掲載させていただくことになりました。是非お読みになりましたうえ，被災された同窓にたいしてどう応援していくかお考えになり，ご意見などを寄せていただければ幸いです。

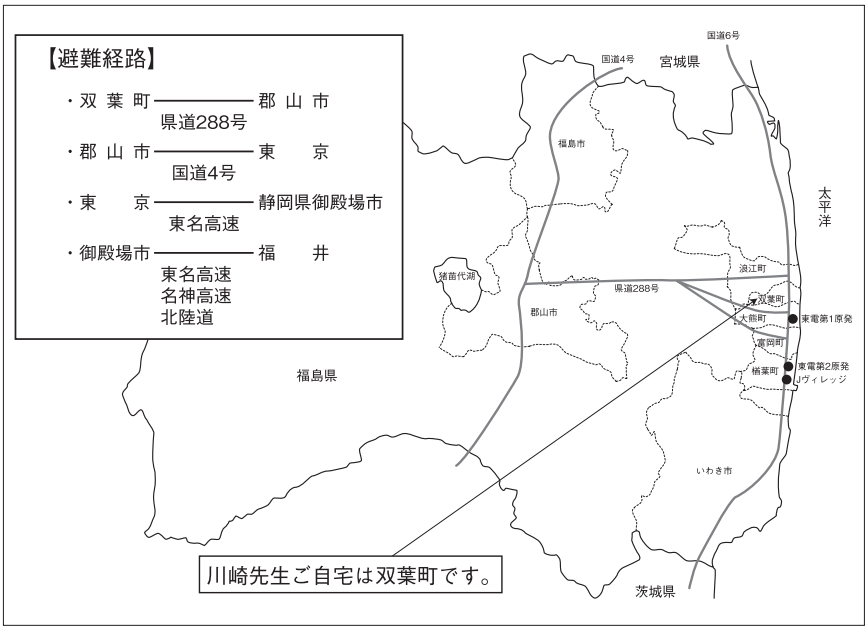
ふるさとを奪われたあの日あの時

福島県　川　崎　良　輔（昭和48年卒）

「兎追いしかの山，こ鮒つりしかの川……思いいずるふるさと，いつの日にか帰らん……」いつの世でも万人の心の奥底にある拠りどころ，それがふるさと。その大事なものを私達家族はあの日を境に失ってしまったのである。３月11日２時46分。その時昼休みの私は下半身を炬燵に入れ寝ころんでテレビを見ていた。そろそろ午後の診療時間（３時～）だ。白衣に着替えようと，起きあがろうとした瞬間グラッときた。横に動き始めた。その揺れは段々おおきくなり恐らく２分位続いたと思う。「ふー，やっとおさまった」今までにない大きな地震だったなあーと思ったとたん，又揺れ出し，今度は縦揺れも加わり約２分位続いた。もう揺れは終りだろうと思っていたら数秒後には又。しかも今度は縦，横に加え斜めにも揺れ，まるでジェットコースターに乗っているようであった。この３度目の揺れの中，下半身に衝撃が走った。本棚や衣装ケースなど重い家具が炬燵の上に倒れてきたのだ。いろいろなものが倒れたり落ちたりしたが，幸い炬燵がブロックしてくれたせいで私の足は怪我をしたり，挟まれたりすることはなく無事であった。この様な揺れはその後４，５回は続いたと思う。その間，部屋の中ではＴシャツとか紙の書類など軽いものは空中を飛びかい，ものすごい揺れで私自身身動きできず，そんな光景をただ見ているだけであった。長い長い地獄の時間が過ぎ，いざ部屋から出ようとしたらドアが開かない。仕方なく襖の方のドアを蹴りやぶり奥の間へ，そして居間にたどり着くと娘が倒れそうになっている家具を必死におさえている姿が目に入った。私はとっさに「倒れてもいいから，すぐ手を離して，外に出なさい」と言い，娘と二人外に出ることができた。外には診療室から飛びだしてきたアシスタントが茫然と立ちつくしていた。彼女は私の顔を見るなり，「先生，診療室がメチャクチャです。」と言うので，すぐに診療室へ行ってみると，とうてい診療が出来る状態ではなかった。そして彼女にはすぐ家に帰るように指示したのである。

私と娘は，当日の仕事の都合で別の町にいっていた妻（いわき市―車で片道一時間）と息子（富岡町―車で片道15分）の無事を確認すべく，携帯にて連絡をとろうとしたが通話不能。立っていられない程の余震が15～30分おき位に頻発する。妻と息子のことが心配ではあったが，まず今晩家族が過ごせる場所を確保しようと，余震の中，台所で散乱する食器のかたづけをはじめた。そうこうしているうちに４時半も過ぎた頃だったか息子が帰ってきた。途中鉄道の立橋等も崩れおちていたので，遠回りして２時間近くかけて家にたどりついたとのこと。合流した３人でこれからどうしようかと自宅の駐車場で相談していると，それを見かけたパトロール中の消防署員が「先生，すぐ津波がくるぞ。急いで避難して」と声をかけてくれた。すぐにそうしようと思ったが，心配なのはまだ連絡のとれない家内のこと。娘が機転をきかせ，ママへメモを書いた。「ママへ，３人は無事，双葉中学校に避難する」このメモを気がつき易い家の入口のドアのところと診療所のドアの２ヵ所に張った。息子にはとりあえず持ち出せるものをもちださせ（ペットボトル２本分の水，ソーセージ２本，カマボコ１個を持ち出せた），車で３人で避難所へ向った。ところが道という道は大渋滞，途中の双葉高校に車を乗りすて，歩いて中学校へ。着いてみるとすでに多くの人でいっぱい。教室のいすと机は片付けられ，我々家族は教室で一夜を過ごすことになった。我々の教室には30数名。中にはあまりのショックでおもらしをし，着替えも出来ず運びこまれた高齢の方もいました。当然ながら皆，パニック状態，興奮状態で，しゃべっていると落ち着くせいか，部屋の中は騒々しい限りであった。９時頃，「第一原発で何らかのトラブルが発生したので全員屋内避難をお願いします」との校内放送があり教室内に緊張感が走った。そんな中，10時頃，思いがけず炊き出しの差し入れがあった。これで全員少し落ち着きを取り戻せたように思う。一家族おにぎり一個ではあったが何とありがたかったことか。我々家族はおにぎりを食べずに妻を待った。11時頃廊下がわから各教室を覗いて我々を探している家内の姿を発見。いわき市から８時間かかって帰ってこれたとのこと。自宅に着いたら真っ暗だったが，車のヘッドライトに写ったメモを見つけたとのこと。よほど嬉しかったのか，いまだに懐に娘の書いたメモを忍ばせている。そして家族４人一つのおにぎりを分けて食べることが出来た。

妻が悪戦苦闘しながら双葉に向っ



ている途中，奇跡的に一本携帯に連絡が入ったとのこと。福井県の知人からで，彼曰く「どこにも行くあてがなければいつでもいい。ここに来な」と言ってくれたそうです。家族全員の無事を確認しホッとしたが，その晩は一睡もできず。翌朝，８時少し前ころ，そろそろ朝食の時間かなと家族で話しあっていると，校内放送があり，マイクからは緊張した声が流されてきた。「東電で重大な事故発生，すぐ10Km 圏外に避難して下さい。」どんなことが起こっているか説明もなしに，「とにかくできるだけ遠くへ逃げろ」と言われ全員ポカーン。「どこに逃げればいいんだ」と担当の役場職員，警察署員につめよるも，誰も何もわからない。「とにかく逃げろ，それも10Km 以上遠くへ」のいってんばり。全く情報がはいらない。何が起こったのかもわからない。「とにかく遠くに逃げろ」だった。幸い私達家族は大人４人，すぐに行動をおこせたが，どこに行ってよいか分らない。妻が乗ってきた車を使ったが，逃げることができる道路は西に向う狭い山道一本のみ。当然その道路に皆がさっとうすれば大混乱が起こることは必至。事実そうなった。地震が少し落ち着いたら自宅に戻って後片付けと考えていたが，それどころか当座必要なものも持ち出せず，着の身着のまま逃亡生活を余儀なくされた。自宅には戻れない。どこに行ってよいのか迷いながら郡山へ。食料調達のため途中コンビニによったが何もなかった。現金は外出していた妻の財布の中にあるだけ。途中，なんとかガソリンを売ってくれるスタンドをみつけ，最後のガソリンを買った。満タンにするほどガソリンはなく，半分までいれてもらい，その車で福島県郡山市，静岡県御殿場市での避難生活を経て最終的には電話の主のところにお世話になることになり現在に至っております。震災発生から今日まで皆様方の多大なるご支援に感謝申し上げます。

東日本大震災を体験して思ったこと

宮城県　**伊　藤　英美子**
（平成14年卒）

震災当日は診療中でした。津波や火災には遭いませんでしたが，かつて経験したことのない激しい揺れ，ライフラインや連絡手段の断絶，初めての小学校への避難，体育館での1,200人に及ぶ避難者に身動きが自由にとれない状況と続く余震の中，暗闇と寒さをしのいで夜明けを待ったことを今でも覚えています。

状況も復旧の見通しも何もかも把握できず途方に暮れている中，被害の少なかった事務所に避難先を移し，食料確保のために日々奔走していました。この飽食日本で食糧難を経験するとは想像すらしませんでしたし，見通しの立たない食料確保に心底不安を覚えました。当時は停電した冷蔵庫から唯一の食品として使えたものが味噌でしたが，今後の見通しが立たない状況では味噌の消費配分が分からないため，味噌汁を何倍にも薄めたような「味噌水」を１日１食として摂った時もありました。そして通常ではありえなかった，街ゆく見知らぬ人達とどこで食べ物が調達できるかを情報交換したり，お互いの被災状況を話したり，

役に立ちそうな情報交換をしたことが印象に残っています。あの時は「声掛け」の大切さを実感しました。

実家のマンションの様子を見に行けた時，目に入った光景は天井からの漏水で水浸しになっている家財・家電・床・壁，自室給湯タンクの外れた配管から溢れ出続けていた漏水でした。各部屋の天井の照明器具からも水がしたたり，乾くまではブレーカーが入れられないため，電気が復旧しても作業できるのは日中のみで，家財等の片付けに期間を要しました。水たまりができている部屋を見て，正直家を捨てたいと思いました。沿岸部の被害状況に比べたら泣き言は言えませんが，以前の面影を失くした部屋を片付けることは心身ともに容易ではありませんでした。思い出の品物も大半は廃棄せざるをえませんでした。

そんな状況でも毎日は過ぎ，時間の経過と共に食料から日用品まで手に入れられるようになり，到底片付かないと思っていた部屋も片付き始め，エレベーターも復旧して階段生活から脱し，自宅に戻れるようになりました。少しずつでも日常に戻り始めたと感じた時は本当に安心しました。親戚や友人からの物資の提供，各方面からの義援金，各都道府県から復旧作業にあたってくれた方達，ボランティアの方々に毎日感謝の気持ちでいっぱいでした。その中でもこの震災で一番感謝したのは物流運搬に携わる方々でした。道路整備もままならない状況にも関わらず各地から物資を県内に運んで来てくれた人，それをまた自ら被災者でもあるのに配達してくれた人，本当にありがたいと思いました。ライフラインの復旧・修繕作業も全て含め，この震災で痛感したのは自分のあたりまえに感じていた普段の生活が，こんなにも様々な業種の方達に支えられていたのだということでした。

この度の震災ほど老若男女問わずたくさんの人達が「何か」を感じ考えた機会はなかったのではないでしょうか。各自が置かれた状況次第では思うところは大きく変わるだろうし，望む状態も違ってくると思います。また時間の経過と共に被災者そして援助する側の気持ちも意識も変わってきます。行政，各業者，各所属団体等からの支援に感謝したり，時間が経つにつれ対応が遅いと腹立たしく感じてみたり。国難とまで扱われる誰も経験したことのない初めての未曾有の惨事だったというのに，周囲が落ち着いてくると次第に感謝以外の別の感情が生まれている状況を目にすることが度々ありました。

ただ私自身が改めて感じたことは，私達は地球という惑星に生きている動物の一種に過ぎないということです。マントルを抱えるこの地球に，そして今もなお動き続けているプレート上に私達が住んでいるということは忘れてはならない事実です。今後も自然災害や人間の力の到底及ばないことも起きるでしょうが，これは地球に住んでいる以上避けられない事象です。しかしその自然災害が発端であったとしても，これまで沢山の恩恵を受けておきながら原子力発電の問題で地球を汚すことだけは到底容認できないことです。そして原子力発電に対して批判をする前に，なぜ原子力発電が必要になったかを回顧すべきです。全ては利便性向上のために進歩し，生活に欠かせない存在になっている電気を，より効率良くたくさん発電することを必要としてきたのは紛れもなく私達です。今回の放射能汚染の問題に関しては，結局は自分達で蒔いた種であると，私は実際そう思います。問題背景に何があろうと，私達全員の問題として向き合うべきです。この地球に住み続ける動物として，何をすべきかを考える時期が来ていると思います。地震を含めた自然災害と今後どう向き合い共存するか等の考えるべきたくさんの事案の答えは，今の私の頭では到底導けませんが，確実に人生の課題の一つとなりました。

追記　伊藤先生より以下の近況をメールにていただきました。
（対策部会　10月３日）

仙台市内にはようやく修繕業者さんが入ってきまして，街中の建物は布で覆われ修繕ラッシュです。

自分自身にようやく余裕ができたため，先月石巻にボランティアに行ってきました。歯科の方はだいぶ前からボランティアの必要性は耳に入らなくなっていたので今回は清掃のボランティアです。（震災当初つくづく歯医者という仕事は電気，水がないと何もできない職業だと感じました。）

半年が経過しても沿岸部は未だにがれきの山，廃車の山，生徒のいない高校，中学校，船が乗りあがった公園，などなど枚挙にいとまがありません。津波がきた高さを示す跡を建物に見ると，溢れる涙が止まりませんでした。

私が行ったところは目の前が３方向海に囲まれた缶詰工場でした。窓を開けると目の前に３階ほどの工場と同じ高さのがれきが積まれたままでした。そして，生涯にこんなに目にすることはないであろう，おびただしいハエの死骸が部屋の中，窓枠にぎっしりありました。おそらく以前，大量発生したハエの自衛隊による駆除後かと思いますが，とにかくひどい数でした。私達ボランティアの清掃が，少しでもこの工場の再建への後押しになればと思いながら帰

路につきました。

市内では以前と変わりない生活が送られ始めています。その一方で，復興がまだまだ，全然まだまだな地域がたくさんあります。今後も時間を見つけて無理のない範囲でボランティアに行けたらと思っています。

震災・・・・・・私の体験

宮城県　田　島　　守
（昭和44年卒）

この度の震災は東北地方のヒトたちに甚大な被害を及ぼしたが，私たち歯科を同業とする者に限ってみても宮城県で７名が亡くなっている。２名はまだ確認されていない。いずれも海沿いで診療中に津波に遭遇した。また幸い命は取り留めたが自宅や診療所が流され廃業や移転に追い込まれたものも多い。これらのヒトからみると私の遭遇した災難は取るに足らないと言える。ただ診療所が海に近かったということが地域の被災者の心情を身近なものとして共感できたということは言えそうだ。

その揺れは突然やってきた。激しい揺れだった。宮城県沖地震以来何度も大きな地震を経験していたのでこれもまもなく収まると思って最初は激しく揺れるキャビネットを必死に押さえていた。患者さんはすでにユニットから降り待合室に，また歯科衛生士は机の下に隠れて大声で顔中涙いっぱいにして叫んでいた。しかし揺れは収まるどころか一層激しくなり周囲でバタンバタンと物の倒れる音がしだした。４台のキャビネット，パノラマレントゲン，コンピュータ，カルテ棚，オートクレーブ，トリーマー，本箱，食器棚，ロッカー，冷蔵庫，乾燥機にいたるまでおよそ置いてあるものすべてが倒れた。室内の壁面は剥離し，スタッフ室を仕切っていたパーテーションも外れ，技工室を仕切っていた天井まである大きなガラス４枚がすべて割れ床はがれきの山と化した。大きな揺れというより強く，加速度のある，言ってみればジェットコースターが急にガクンと直角に曲がるときのような激しい衝撃を感じた。一瞬このビルが崩れると思ったほどだった。後でわかったがパノラマやキャビネットを固定していた太いボルトもすべて折れていた。宮城県の中でも震度が大きかった宮城野区であったのと建物が鉄骨造りの３階建てで揺れに弱い構造だったことが重なったものと思われる。

揺れが収まりビルの前の駐車場に他室の従業員たちもぞろぞろ出てきた。女性の一人は足に怪我して出血していたが消毒薬を取りにも行けない。皆腰を抜かして地面にお尻をペッタリつけている。

診療所は仙台市の中心部から東に10キロ程，海岸線から４キロ程に位置している。亘理から仙台空港，岩沼，仙台港北インターと県沿岸部をつらねる仙台東部道路に面している。確かに地理的には海に近いが普通の生活では海を意識したこともない。海岸までは豊かな田園が広がり新興の住宅も多く建っている。しかし津波はこの東部道路まで到達した。東部道路で津波の勢いが遮られたという。診療所の真向かいの大型娯楽施設コロナワールドや，三井アウトレットモール，多賀城ジャスコ，キリンビール，多賀城自衛隊駐屯地など東部道路沿いの施設や会社など軒並みやられた。更に仙石線中野栄駅付近や多賀城側ではこの道路を超え45号線まで到達した。全く考えられないほど内陸まで浸水した。診療所が入っているテナントビルは道路を挟んでいたためか奇跡的に浸水を免れた。

地震の直後仙台市中心部にある自宅が心配だった。妻がひとりで待っている。全く経験したことのない地震だ。一瞬阪神淡路大地震の時の神戸が頭をよぎった。建物は倒壊していないか，火事は起きていないか。車で自宅に向かう中テレビが盛んに「大津波警報」を連呼していたがこの時はピンとこなかった。本当に津波の怖さがわかったのはこの後のことで，その夜かあくる日のことだったか，手回しの非常用ラジオからとぎれとぎれに入ってくる情報で,「若林区で200～300の遺体が見つかった」という県警の発表だった。一体何事が起ったのか，想像もできない中で背筋に冷たいものが走った。

その時歯科衛生士Ｙ子も車を置い

て歩いて実家に向かったが向かった先には津波が待っていた。彼女は避難所暮らしになったが幸い体は無事だった。診療所の生活圏がこのあたりにあるので診療所のスタッフや患者さんに身近な被災者が大勢出た。地震の後次第に元の生活が戻ってきつつある中でどうしても元に戻らないもの，深い傷が残ったままになったもの，これが「命」にかかわるものなのだ。後述したいと思う。

自宅は無事だった。しかし電気，水，ガスが完全に断たれた生活は経験のないものだった。寒くて食べるものがなくローソクの中で不安だった。携帯は全くつながらず，テレビもつかず他所の情報が入らないため明日がどうなるのかも分からなかった。公共交通手段を失った帰宅難民が信号も点かない真っ暗な街を黙々と帰路に就く姿は不気味なものだった。とにかく寒かった。そんな中玄関を開けるとカセットコンロとボンベ，ペットボトル，使い捨てカイロが置いてあった。友人の好意が身にしみた。

これからのことは詳しくは触れることでもない。情報不足，水不足，ガソリン不足，食料不足，ガス不足，これらは被災地のすべてのヒトが経験したことだ。バケツとありあわせのお鍋を抱えて給水車の長い長い列にもついた。新潟や神奈川など他県からの救援の給水車が多く有難かった。診療所を片づけるにもガソリンがないため現地にも行けず，電気も通っていない状況で機械の修理に業者も動けないといった状態が続き一応の診療再開まで漕ぎつけるのに18日を要した。この間風呂にも入れない状況が続き妻を東京の娘のところに避難させた。新幹線は通っていなく新潟経由の高速バスだ。こちらは特にすることもなく食料を求めつつホームレスよろしく毎日犬を連れて街を彷徨した。また個人的なことになるが老後の為と思って所有していたマンション１棟に大きな亀裂が入った。「大規模半壊」と診断され，解体しなくてはいけないこととなってしまった。20戸のヒトたちに立ち退きを依頼し建物全体をネットですっぽり覆い２次被害を予防した。入居者に事故がなくてよかったと安堵している。

地震のその時，結婚で退職した元受付スタッフＡ子は１歳７カ月になる男の子を実家である蒲生の両親に預けて仙台駅前で買い物をしていた。蒲生地区は海岸線に最も近く多くの犠牲者を出したところだ。慌てて実家に向かったが卸町付近まで来た時津波はすでに蒲生に到達してしまった。親友である現在の受付のスタッフＢ子に「だめだ　もう間に合わない」という悲鳴のような携帯が入ってそれっきり。あれからもう４カ月が過ぎようとしているのにＢ子にもわたしにも全く連絡が付かない状態になっている。彼女は一瞬のうちに子供と両親と祖母を喪ったことを悟ったのだ。自分が子供を守ってあげられなかったという自責の念が彼女を極限まで苦しめている。Ａ子は元来おしゃべりでよく笑う元気な子だ。社員旅行や食事などにもよく行ったし，なにより10年にわたる仕事の上での善きパートナーだった。退職後も声をかけるとすぐ飛んできた。そんな中Ｂ子は誰に言われたのでもなく自らＡ子の家族を捜しはじめた。あのガソリンのないなか各地の避難所や安置所などを巡り，最後に仙台中野小学校に辿り着き事の全容が判明した。家族が途中まで一緒に逃げていたという証言も得られたし，ヘリコプターで救助された中にはいなかったということもわかった。これからは遺体確認だ。毎日発表される県の情報に齧りつき逐一こちらにもその報告が来た。またネットのパーソンファインダーに辿り着き両親を探しているＡ子の弟の存在もわかった。私もメールを送ってみたが「姉にはそっとしてやっていてほしい」という言外の言葉があった。４人の遺体はなかなか上がらず１カ月後自衛隊の第２次一斉捜索でようやく一人づつ見つかった。父親はまだだ。そんな中Ｂ子はＡ子に手紙を書いた。「私はあなたが生きていることがうれしい。」なんという優しさだ。涙が止まらない……。地震の後Ａ子の実家の跡に行ってみたがどこに家があったかも全くわからないほど何もなくなっていた。セメントの基礎部分だけがまるで造成中の団地のように広がっていた。避難場所であったはずの仙台中野小学校はこの宅地からわずか２～300メートルくらい前方にポツンと佇んでいた。まっすぐ歩けば間に合ったのにと無念さがこみあげた。

診療中Ｂ子は「あのＳちゃんが」と絶句し，「泣きたくなる」と言いながら本当に泣き出した。高校２年生のＳちゃんとは子供のころから通っている患者さん。期末試験中でひとり家で勉強していた。父親は遺体安置所を探して見つけだしたが，ここで見たのは口に出すのも憚れるような悲惨な光景だったという。「代われるものなら代ってやりたかった」いまだ葬儀も出さないで悲嘆にくれている。母親もこのことに触れると途端にあたり構わず嗚咽をはじめる。何カ月たっても傷は全く癒えていない。

こんな話はここでは日常だ。２万人を超えるヒトが犠牲になったこと

を考えると悲しみは一体どこまで及んでいるのだろうと思わず天を仰いでしまう。父親の病気で急に気仙沼の実家に帰った歯科衛生士C子からも長い便りが来た。勤めていた診療所の先生が流されて亡くなり自分も家が流され二人の子供を連れ一家６人で岩手県の仮設に入っているという。間接的ではあるのだが被災者の心情が痛いほどよくわかる。

こんな中にあって最後に一筋の救いとも言えるエピソードを紹介しよう。

診療再開までは前述したが，実は再開から数日後４月７日に大きな余震があった。夜11時半頃のことで，あくる日診療所に行くとようやく再開したばかりの診療所の内部が全く前と同じ，いや前よりひどく倒壊していた。震度としては本震より大きかったと皆が口をそろえる。宮城野区は栗原と並んで震度６強だった。予約の患者と一緒に診療所のドアを開けるとしばし絶句。唖然茫然あいた口が塞がらないとはこのことだ。しかしこの時この初老の患者さんは「うーん」と唸ったきり何事もなかったかのように「さあやるべ」といって一人黙々と片付けをやり始めた。別の患者さんも加わり車を出してがれきを何度も運んでくれた。階下のテナントの社長と従業員も参加し，Ｂ子の頼もしいご主人も駆けつけその他何人かでほぼ１日であらかた片付いた。後で知ったことだが階下のテナントではこちらからの漏水で大変だったそうだ。困った時は何も言わずに助け合う。そんな東北人の気質を見た気がした。

私たちの生きた時代は戦後の混乱期から高度経済成長を経て戦争もなく平和で安定した今の暮らしがある。良い時代に生きたと妻とよく話していた。しかし人生の晩年にやはり何かがあった。経済的にはゆっくりであれ回復してゆくと思うが心に負った傷の回復はそうはいかない。他人の痛みを分かりいくらかでも何か力になれることがあればよいと思うが。

追伸　この原稿を書いている時，７月24日に前述の不明の二人のうち一人のご遺体が見つかったという報が入った。40歳代の雄勝の病院歯科の先生だ。口腔ケアに熱心な先生で院内の高齢者の誘導にあたっていたのかもしれない。ご冥福をお祈り申し上げます。

来週はM先生の送別会だ。国保審査会で20年近く机を並べた仲だが塩釜の診療所と自宅を流され岩手県の方に引っ越しされることになった。お元気で頑張られるよう祈るだけだ。

最後になったがこの度の震災に関して多くの方からお見舞いや励ましを頂いた。地震の直後金子学長から電話を頂いた。「今来ていただいても……」という失礼なお返事に笑って答えて頂いた。また大山会長以下数名の役員の先生が現地視察にお見えになった。義捐金も宮城県支部として有難く頂いた。兵庫県支部からもお見舞いを頂いた。その他同級生有志，教職員一同からも温かいお見舞いを頂いた。同窓の絆の強さを改めて強く感じさせられた。この紙面を借りて心より感謝と御礼を申し上げます。

「震災備蓄について」

宮城県支部長　**小　野　　喬**
（昭和45年卒）

３月11日の大震災では多くの方がそれぞれ大変な思いをされた事と思います。震災後はインフラの崩壊と道路が寸断され，物不足に陥り復旧まで多くの方が普段の生活に困窮しました。

私は30年程前の宮城県沖地震の経験を踏まえ，近いうちに再来すると言われていた大地震を想定しその対策を講じ，あまり生活に困らなかったので最低限の備蓄を紹介したいと思います。

“震災後10日間の生活を考えた備へ”

１．まず水ですが，私達夫婦二人で飲料水の備蓄は一日５ℓ・10日間で50ℓ必要。
20ℓのメディタンク（太陽光にあたる所に保管して，３年間自然殺菌してくれるタンク）。10ℓの真水用ポリタンク１個（注ぎ口まで一杯に水を入れ，気が付いた時に水を交換）。２ℓの市販飲料水を10本位購入・保管（時々使用し補

給を忘れない事)。

2．水洗トイレに使う水は風呂桶の水。前日に使用した水は捨てずに，入浴直前に新しい水を入れてから沸かす習慣をつける。上手に使うと何とか10日間は持つが，心配な時小は流さずに大のみ流す。
裏技として，大きな地震を感じたら直ぐに風呂桶に水を補給する。
水道管が破裂しても，水道管内に有る水は蛇口から出るのでこれは早い者勝ち。
非常用トイレも必要だが，我が家は庭も広く小さな温室も有るのでいざとなれば其処を目隠しして使い，排泄物は穴を掘って埋めてしまえばよいので心配していなかった。

3．カセットガスコンロ・２台。普段使っているもののほかに予備に新品を一台買っておくと安心。ガスボンベ10本位（普段使用したら必ず補給を忘れない)。

4．石油ストーブ（これは必需品と言っても良い)。
アラジン社のブルーフレーム１台。これは大変な優れもので，匂いもなくこれが有ると料理の煮炊きが出来る。冬はヤカンをかけておくと常にお湯が沸いている。
我が家は冬季には常時使用している。
大切な事は，夏に芯の交換をして予備の芯を購入して置く事。
オール電化システムは一見きれいで便利な様だが，震災を考えると怖くて構築する気はない。

5．石油の備蓄
これは場所の問題も有り難しいが，最低20ℓポリタンクが二つ位有ると良い。
我が家は広めの“下屋”が有るので常時満タンで８個くらい有る。
それに床暖房用のタンク（60ℓ）は満タンにしている。

6．携帯ラジオ２台と懐中電灯を二本。
ラジオ一台は電池使用，もう一台は手回し発電ラジオ。乾電池は単位ごとに１ダース位備蓄。

7．ローソクとマッチは沢山あると安心。それと石油ランプ一台。
停電時，暗い夜は不安感が強くなるので出来るだけ明るく過ごすために。それに夫婦生活も長くなると他にする事もないので（？)。

8．備蓄食品は缶詰やスープ類，サトウのご飯，おこわ類や粥，レトルトのカレー・ハヤシ・シチュウ類等好みの物を考えて購入し，時々食べて補給を忘れない事。

9．サランラップとアルミホイルを一本。
食事の時食器類にかぶせて使用すると，使用後水洗いが省ける。

10．ベッドサイドにスリッパ（窓ガラスが割れた時必要)，懐中電灯，携帯ラジオを常備し，就寝時，携帯電話，腕時計，貴重品は側に置いておく習慣をつける。

11．常備薬品など必要な物は，無くなる直前に購入するのではなく常に半分になったら新しいものを購入する習慣を付ける事。

12．車のガソリン給油も半分になったら必ず満タンにする習慣をつける事。
これは大切だが中々出来ないし，震災以外でも非常時に「補給していて良かった」と痛感する時があるはず。

これだけ準備しておけば，10日～14日間位は普段に近い生活が出来ます。震災を冬季に遭遇しインフラが

優れもの石油ストーブ

温室内に保管してある“メディタンク”

ワイングラスラック・扉の取手
見た目は格好悪いが簡単に縛っておくだけで，あの大震災でも一つも壊れなかった。
扉が開いたらほぼ全滅だったでしょう。

ドイツ製“フェアハンド・ランタン”

破壊され，暗闇と，寒さと，空腹にさらされると，その不安感は相当なものです。

東京の方達が「計画停電」でオタオタしているのをTVで見るにつけ，冷たい視線を送り笑っていました。

最後に大切な事は，これらの備品を家具の倒壊で塞がれてしまう所や押し入れの奥に保管せずに，直ちに出せるところに「非常用備品」と大書し置いておく事が大切です。

今回の震災ではガスの復旧が45日後と遅れ風呂に長期間入る事が出来なかった。これは我が家のパワー源を都市ガス一本に頼っていた事が原因なので今後は石油やプロパンガス使用等マルチな熱源を考えなければいけない事を痛感した。

しかし大津波を受けた被災地を自分の目で見た時，どんな備蓄を講じても何の役にもたたない事を知り無力感に襲われた事を付記します。

今回の東日本大震災におきましては，全国の同窓の先生方から多大なご支援と励ましを戴き感謝申し上げます。

併せて同窓会長大山萬夫先生をはじめとして同窓会本部役員の先生方のお力添えを戴いた事に，改めて厚く御礼申し上げます，本当に有難うございました。

被災された県の支部長先生をはじめとして全ての被災支部会員が同じ気持ちだと思っておりますが，宮城県支部会員を代表して感謝の意を申し上げます。

渉　　外

東歯関係日歯役員・代議員，都道府県歯会長と同窓会役員との懇談会

第169回日歯代議員会１日目の９月８日（木）の午後６時より飯田橋のホテルメトロポリタンエドモント３階「春琴」において恒例の懇談会が開催されました。

出席者は，東歯関係の日歯役員５名，日歯代議員18名，都道府県歯会長５名，同窓会役員18名，そして来賓として本学の金子　譲理事長，井出吉信学長がご列席くださいました。

髙橋義一専務理事の司会進行で，片倉恵男副会長が開会の辞を述べ，まず大山萬夫会長より「大震災など色々な社会的な問題があるが，同窓

会の機構改革に向け各地域の意見を聞きながら準備を進めている，歯科医師会としても色々な問題が山積していると思うが同窓会として出来るだけの応援をしていきたい」との挨拶があり，つづいて，ご来賓の金子譲理事長より「学生定員減員の話も久しいが，今後海外の大学が連携協力しあって国際的な活動をしていこうとの動きもある，本学としても将来に希望を持ってそのような流れに乗り遅れないようにしていきたい。」とのご挨拶を頂いた，井出吉信学長からは「７月１日付で学長に就任したので宜しくお願いしたい。各地での同窓の活躍は大学としてもとても力になっている。昨年の入試では圧倒的多数の受験生を集められた，大学の移転も順調に進んでいる，今後も支援を宜しくお願いしたい」とのご挨拶を頂戴いたしました。

つづいて，出席者紹介にうつりました。ご存知のように日歯はこの４月より新執行部となり，常務理事に冨山雅史先生（昭和57年卒）と中島信也先生（昭和59年卒），理事に森原久樹先生（昭和43年卒）と中村宣夫先生（昭和55年卒），常務監事に矢﨑秀昭先生（昭和42年卒・同窓会副会長）がそれぞれ就任されました。出

席された日歯役員の先生から，それぞれ一言ずつご挨拶を頂戴いたしました。

その後，日歯代議員と都道府県歯会長の紹介がありました。

尚，同窓の全国都道府県歯会長は，秋田県歯会長は藤原元幸先生（昭和50年卒），群馬県歯会長は村山利之先生（昭和55年卒），千葉県歯会長は浅野薫之先生（昭和40年卒），新潟県歯会長は五十嵐　治先生（昭和47年卒），鹿児島県歯会長は森原久樹先生（昭和43年卒）です。

この後，高橋利武日歯代議員の座長のもと懇談会は進行され，まず報告事項として，第169回日歯代議員会の総括報告を高橋哲夫代議員より

頂戴し，つづいて同窓会に関して会務報告を佐々木眞澄常任理事が，東日本大震災への対応について臼井文規常任理事が報告，渉外部からの報告として，平成23年３月末の時点で日歯会員64,578名中5,660名（8.76％），日歯代議員139名中19名（14.0％），都道府県歯会長47名中５名（11.0％）が同窓であると佐々木眞澄常任理事から報告，そして同窓会改革に関して特に機構改革に関する現況報告を髙橋義一専務理事が行いました。

その後，協議に移り梅村長生副会長の提案で「本部同窓会における医政への対応について」をテーマに意見交換が行なわれました。話題は，歯科医師会の未入会対策にもおよび，中島常務理事より本年７月23日

に東京歯科大学同窓会が主管で開催された全歯懇のテーマであった「若手同窓支援」は，歯科医師会の未入会対策ともなりえる事なので日歯としても感心を持っているとの紹介もありました。また，松川公敏代議員より今後の歯科医師会を考える上からも同窓会が情報を出し活性化していくことは重要であるとの意見が述べられました。さらに，各代議員より代議員会での質問内容主旨の説明があり，最後に宮地建夫副会長が懇談会の閉会の辞を述べました。

会場を２階の「薫風」に移した懇親会では，まず，大久保満男日歯会長，村上恵一日歯専務理事，柳川忠廣日歯常務理事と高木幹正日歯連盟会長，島村　大日歯連盟理事長とが揃ってお見えになり，大久保日歯会長と高木日歯連盟会長より，それぞれ新執行部への協力のお礼を含めたご挨拶を頂戴しました。なお，島村日歯連盟理事長は渉外担当の同窓会常任理事でもあります。

その後，佐々木常任理事司会のもと，関　泰忠副会長の開会の辞，そ

して川口　浩衆議院議員よりご挨拶を頂戴しました。

浅野薫之千葉県歯科医師会会長（同窓会監事）の乾杯の発声で，懇親会は終始和やかな雰囲気の中進行し，出席した各代議員，都道府県歯会長よりそれぞれ一言づつ頂戴しました。

最後に恒例の鳴神保雄顧問から総括を頂き，名残を惜しみつつ田原邦明常任理事の閉会の辞で終了しました。

卒研リポート2011

TDC インプラントセミナー

マスターコースNo.2

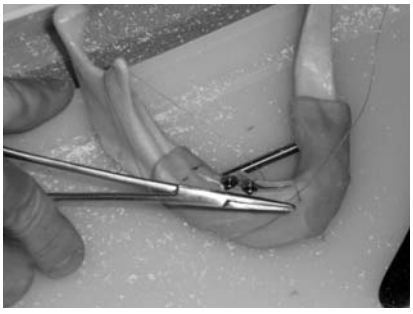
前回に引き続き７月，９月の４日間に渡り上記セミナーの取材をしてきましたので報告いたします。

合計10日間のこのコースも早いもので，今日で折り返しの５日目となりました。マスターコースという名の通り，各種インプラントシステムの第一人者から直接講義を聞けて，続けて実習を受けることができるというのは非常にすばらしい企画です。

５日目の予定は飯島先生によるストローマンデンタルインプラントシステムの紹介と埋入実習から始まりました。

講義中の飯島先生

ストローマンシステムの歴史から，ブローネマルクシステムとの表面性状や埋入の違いなど判りやすく丁寧な講義でした。



ストローマン埋入実習

埋入実習ではティッシュレベル１回法を使う場合は特に骨のフラットニングをしっかり行い，感染しやすいSLA 表面をきちんと骨の中に入れて下さいとのことでした。

午後は椎貝先生より「Simplant」というシュミレーションソフトを使った実習，「T's ボーンスプレッティングキット」を使った既存骨を利用した埋入窩の形成実習がありました。

抜歯即時症例や上顎前歯の骨幅狭小症例の埋入窩形成には非常に有効で，ぜひとも取り入れたいシステムです。

講義中の椎貝先生

休憩を挟んで，夕方からアドバンス外科実習として矢島先生よりリフティングドリルを用いた上顎洞底挙上術の実習でした。ドリリングによるものと，さらにオステオトームも併用した上級実習で，この手技も埋入応用が利くものです。

オステオトーム実習

５日目の最後はペアを組んでオペ着の着用を学び，そのままブタ顎骨外科実習として粘膜切開の基本，骨膜剥離，減張切開，縫合の基礎を学び５日目が終了です。

手術着着用実習

矢島先生による豚顎骨外科実習

翌日６日目の日曜日は，河田先生の「インプラント上部構造の歯科理工学」の講義を受けました。材料の違いやセラミックの強化，ハイブリッドセラミックス，ジルコニアの結晶構造など最新の材料の話を聞くことができました。

続いて関根先生より「インプラント治療のワークフロー」「各種インプラントの構造の特徴と選択」「骨結合獲得と長期維持の為のリスクマ

河田先生の上部構造歯科理工学

ネージメント」の講義でした。

治療計画立案，自分の使用しているインプラントシステムの特徴を理解しその中からの選択基準，注意事項，印象採得法の比較，アバットメントや上部構造の違いなど非常に判りやすく説明していただけました。

６日目午後は講義の間に挟んで，「プロビジョナルレストレーション実習」が行われました。これは４日目の「下顎右側５・７番部位インプラント埋入・印象採得実習」の続きになります。自分で埋入した右下５・７番フィクスチャーにテンプレートを使ってプロビジョナルブリッジをレジンで作成するものです。最終上部構造はこのプロビジョナルを CAD/CAM にてスキャンして作成されるので真剣に取り組んでいました。

セミナーも９月となり，７日目は二階堂先生の「インプラント時代の“Periodontology”」と題した講義がありました。

歯周治療の進歩と共に従来抜歯の対象だった歯を残せるようになった反面，インプラントが臨床に取り入れられるようになると抜歯の基準が変わってきている事，アメリカの歯周病専門医でも歯を残すことはしなくなっている事など興味深い内容でした。そして，皆が残せる歯を抜いてインプラントに流されず，もう一度この歯は残せないかと考えていただきたいということでした。

シャープニング実習

講義のあとはスケーラーのシャープニング実習と「ブタ顎を使った歯周外科実習」が行われました。

５日目のブタ顎実習は基本的な切開，縫合などでしたが，今回はアドバンスとして「遊離歯肉移植術」「結合組織移植術」の実習です。

審美的な要求が高まっている事を考えると，インプラントの成功のゴールは埋入部分も含め，他の部分も満足して得られるものとして活用したい術式です。

８日目は小宮山先生による「埋入術式の選択」「インプラント補綴に関して」と題して臨床に即した，様々なテクニック，注意事項が紹介されました。そして口腔内は必ず変化することを忘れてはならず，再治療可能性，セメント合着の難しさなどを話されました。

続いて関根先生の「インプラント補綴における咬合」の講義と「上部構造装着と咬合調整」実習にとりかかりました。

実習に使うブリッジは６日目に自ら作成したレジンのプロビジョナルを CAD/CAM でスキャンしたチタン製最終補綴物です。最初の治療計画通り埋入できたなら咬合面中央にネジ穴があるはずですが，前後にずれたり，傾斜してネジ穴が頬側面にまで及んだりと，埋入の難しさを体験しました。そしてブリッジをマネキンの口腔内に装着体験をした後，咬合器上で咬合調整を入念に行い８日目も無事終了です。

（取材・広報部　福井雅之）

最終補綴物装着体験

自ら手本を見せる二階堂先生

卒研リポート2011

スタンダードプリコーション

～感染に対する正しい知識～

2011年９月８日（木）に，TDCビル血脇ホールにおいて行われました，同窓会卒後研修イブニングセミナー，「スタンダードプリコーション」～感染に対する正しい知識～を取材してまいりました。今回は本学臨床検査病理学講座主任教授の井上孝先生ならびに同講座准教授で臨床検査部長の松坂賢一先生により２題の講演が行われました。

まず井上先生から概論として，スタンダードプリコーションの定義等のお話があった後，誤嚥性肺炎の問題が取り上げられました。誤嚥性肺炎の罹患率は，50－60歳代では20％なのに対して，90歳代位の超高齢者になるとほとんどの方が誤嚥性肺炎が原因で亡くなっているとのことでした。またこの誤嚥性肺炎の原因となるのは先生の死体解剖認定医としてのご経験から，ほとんど歯周病が引き金になっている可能性を指摘され，我々歯科医師が口腔内環境を整備することの重要性を力説されました。さらにスタンダードプリコーションとは，ともすれば器械を滅菌することと思われがちですが，本当は歯科医師が患者さんの口腔内環境を整備することを言うのであり，そのことからもしかしたら人間の寿命を延ばすことも出来るのかもしれない。そのためには医学部の先生方と医療連携を組んで治療に取り組まなくてはならないという説得力あるお話でした。また，ラーメン屋の割り箸，家庭で使用しているスプーンや歯ブラシを滅菌する必要があるのか？ということから，生体の内部環境にアタックする場合と外部環境下で使用するものとを明確に区別するべきであるということがスタンダードプリコーションに必要であるとのことでした。この後，「もし唾液が赤かったら…」というビデオを流して，日常臨床における無意識の動作が感染につながる危険性が説明されました。

続いて松坂先生から「一般歯科診療室における感染予防」をテーマに，スタンダードプリコーションセミナーが開催されました。ここではまず「歯科ではなぜ感染予防対策が必要か？」ということで，まず患者さんも術者も処置中には多くの病原体にさらされること，血液，唾液，呼吸分泌物などで汚染された器材との接触がおこること，適切な処置で患者さんと医療従事者の感染伝播を予防することができることを強調されました。そしてスタンダードプリコーションの３原則，「感染源の除去」「感染経路の遮断」「感染症に対する患者の抵抗力を高め易感染者を保護する」ために手洗いや防護具の使用について詳細な解説がありました。さらには「洗浄」「消毒」「滅菌」の違いや，針刺し事故による感染の危険度など，我々が日常の臨床において，常に念頭におくべき重要な項目の説明がありました。講演後活発な質疑応答があり，内容の濃い質疑に参加者一同あらためてスタンダードプリコーションについての認識を新たにしたようでした。講師の先生方お疲れ様でした。

（取材・広報部　古澤成博）

よく見られる請求誤りの事例

①管理

☆初診月の翌月を過ぎてから１回目の歯科疾患管理料（歯管）を算定しています

１回目の歯管は，初診日から翌月の末日までに行った場合に算定できます。

☆Hys や歯牙破折等，対象疾患以外で歯科衛生実地指導料を算定しています

歯科衛生実地指導料は，う蝕又は歯周疾患に罹患している患者に対して算定できます。

☆初診，MT 病名で有床義歯管理料（義管 B）を算定しています

義管 B・有床義歯調整管理料（義調）は，義歯破折・義歯不適等の病名の場合算定できます。
MT 病名のみでの義管 B の算定は出来ません。

☆新製有床義歯装着後，翌月に新製有床義歯管理料（義管 A）を算定しています

義管 A は，新製有床義歯を装着した月のみ，１回に限り算定できます。
翌月以降は，義管 B によって算定します。

☆義歯管理料を月２回以上算定しています

義歯管理料（義管 A，義管 B，義管 C）については，いずれか月１回に限り算定できます。例外として，新製有床義歯の装着以前に，旧義歯（新製有床義歯と同じ欠損部位を含む）の修理を同月に行った場合は，義管 B を算定した後，新製有床義歯装着時に義管 A を算定することができます。

☆残存歯による咬合があるのに咬合機能回復困難者加算を算定しています

義歯管理料の咬合機能回復困難者加算は，下記の要件を充たしていれば義歯管理料（義管 A，義管 B，義管 C）に対して，40点を加算できます。

１．総義歯を新たに装着した患者
２．対合歯に総義歯を装着している患者
３．９歯以上の局部義歯を装着し，かつ残存歯が咬合していない患者

上記の如く，全て残存歯による対合関係が失われている場合が該当します。
なお，有床義歯調整管理料（義調）に対してはこの加算は算定できません。

②処置・手術

☆150点以下の処置に対して時間外加算の算定をしています

処置に対する時間外加算の算定は，当該処置に対する所定点数の合算が150点以上の場合に，それぞれの処置に対して所定点数の40／100を加算できます。
150点未満の処置に対する時間外加算の算定はできません。
例：単根歯の急化 Per で，FCK 除去料30点＋感根処130点を算定した場合，それぞれは150点未満であるが，合計点数が160点のため40／100の「64点」の加算が算定できます。

☆同一病巣に対して同時に２回以上の口腔内消炎手術（切開）しています

同一病巣に対して同時に２回以上の切開を行っても，１回のみの算定になります。

☆直接歯髄覆罩（直覆）後，１ヵ月以内に歯冠修復を行っています

直覆を行った場合は，１ヵ月以内の歯冠修復等の算定はできません。

☆使用した特定薬剤名の記載がなく歯周疾患処置（P 処）の算定をしています

P 処については，診療報酬明細書の処置・手術の『その他欄』に部位及び使用した特定薬剤名を記載することが必要です。

☆４歯未満の歯周外科手術を行った時に暫間固定を算定しています

歯周外科手術時に行う暫間固定の「困難なもの」とは，固定源となる歯を歯数に含めない４歯以上の歯周外科時に算定できます。

歯周外科手術に伴う４歯未満の暫間固定の費用は，歯周外科手術に含まれ算定できません。

☆１顎に２ヵ所以上の暫間固定（簡単なもの）を算定しています

暫間固定（簡単なもの）は，１顎に２ヵ所以上の暫間固定（簡単なもの）を行った場合でも，１顎１回のみの算定となります。

☆同一歯に対して充填の費用を複数回算定しています

同一歯に対して複数の窩洞を充填した場合に，充填の費用（単純100点・複雑148点）を窩洞数に応じて算定している場合が見受けられます。

充填の費用は窩洞数にかかわらず１歯１回限りの算定となります。

☆歯ぎしりに対する咬合床の印象，咬合採得を誤って算定しています

アクチバトール式以外の咬合床	印象採得料　40点	咬合採得料　な し
アクチバトール式の咬合床	印象採得料　70点	咬合採得料　185点

の算定となります。

☆歯ぎしりに対する咬合床に床副子調整の算定をしています

歯ぎしりに対する咬合床に床副子調整（220点）を算定している例が多く見受けられますが，歯ぎしりに対する咬合床には算定できません。

☆同月に歯管の算定がなく，歯周病安定期治療（SPT）を算定しています

歯管又は歯科疾患在宅療養管理料（歯在管）の算定がない患者に対して，SPT の算定はできません。

③麻酔

☆スケーリングや形成に浸潤麻酔の算定をしています

浸潤麻酔の算定は，以下のものに対しては算定できません。

1．手術
2．所定点数が120点以上の処置
3．歯周基本治療（スケーリング・SRP・PCur）等，特に規定されている場合
4．歯冠形成（KP も含む）

ただし，手術の中止，歯牙破折片除去時等は算定可能です

④歯冠修復及び欠損補綴

☆ブリッジ１装置に２回のリテイナーを算定しています

ブリッジのリテイナーは，ブリッジ１装置につき１回に限り算定できます。

なお，分割して製作した場合であっても，ブリッジ１装置につき所定点数１回の算定となります。

⑤在宅医療

☆歯科訪問診療料と初・再診料を同日に算定しています

歯科訪問診療料を算定した日には，初・再診料の算定はできません。

※注意　本資料の解釈については地域により異なる場合があります。地域の実情により対応をお願いいたします。

社会保険指導者研修会出席者情報交換会の開催

平成23年度全国社会保険指導者研修会が９月26日（月）11時より日本教育会館「一ツ橋ホール」に於いて開催された。この研修会には各都道府県で保険関係の指導的立場の先生方が参加している。

研修会終了後，同窓会主催の「社会保険指導者懇談会・懇親会」が16時30分より如水会館にて開催された。来賓として井出吉信東京歯科大学新学長を招き，同窓62名が参集した。中西国人保険担当常任理事の司会の下，大山萬夫同窓会会長の挨拶に始まり，次に井出吉信学長の挨拶の後，矢崎秀昭日本歯科医師会常務監事の挨拶を賜った。その後，東京都歯科医師会保険担当副会長の高橋哲夫先生の24年度改定に向けての抱負を賜り，最後に中島信也日本歯科医師会常務理事による次期改定に向け，日歯は鋭意取り組んでいる旨の説明があった。

また，森岡俊介前日本歯科医師会保険担当理事による平成22年度改定の考察があり，その中で同氏は点数の貼り付け項目について実態に与える影響を解説した。

続いて蛯谷剛文保険委員会委員長が座長を務め「歯科医療管理と歯科保険診療の課題」と題した元厚生労働省歯科医療管理官であり現在新潟医療福祉大学教授の瀧口　徹教授の講演があった。その中で同氏は「医療管理」「歯科保険診療制度」「歯科保健・医療の展望」「歯科医師需給」「指導監査」「クリニカル・ガバナンス」等多岐に渡る濃い内容を解説した。次いで会場からの活発な質疑の後，各都道府県からの審査情報や意見も寄せられ大変有意義であった。最後に髙橋義一同窓会専務理事から講演者への御礼及び閉会の辞で終了した。

続いて石原　忍保険部委員会委員の司会の下，懇親会が開催された。梅村長生同窓会副会長の挨拶に始まり，井出吉信学長には，スライドを交え水道橋校舎の工事進捗状況や最近の本学受験生の動向等について興味深い報告がなされた。次に鈴木雅夫先生（岩手）には，震災の状況報告および同窓からの支援のお礼を含めて，乾杯の発声を頂いた。懇親会が始まり終始和やかな雰囲気の中，各々旧交を温めたり，地域の状況等を話し合い様々な交流が行われた。名残を惜しみつつ佐々木眞澄同窓会常務理事の閉会により会は終了した。　（保険部委員　金子久章）

さいかち坂新校舎（仮称）での学生生活

物理学研究室
教授　望　月　隆　二

皆様すでにご存じの通り，東京歯科大学はさらなる発展を期して，平成24年度から順次水道橋に移転いたします。平成24年度新入生は入学時から新築のさいかち坂校舎での生活が始まります。大学に入学する，というだけでも大きな喜びにあふれるところですが，それがどの先輩も知らない新築の校舎で入学を迎える，となればいやが上にも期待は高まらざるを得ないでしょう。

ここでは，主に第１学年の教養科目を担当する教員として，さいかち坂校舎の概要と，そこで送られるであろう新入生の生活についてご説明いたします。ただし，いくつかの点でまだ流動的なところがあります事をご承知おきください。建築やカリキュラムの詳細については大学からのお知らせで確認していただきたいと存じます。

さいかち坂（皀角坂）は水道橋駅から御茶ノ水駅に向かい神田川沿いに上っていく坂で，『新編江戸志』に「むかし皀角樹多くある故に坂の名とす。」とあります。新校舎はさいかち坂を上りきるあたりに位置し，水道橋，お茶の水の両駅から徒歩５分程度で着く距離にあります。東京駅から中央線に乗ればあっという間にお茶の水駅ですから，都内は勿論，千葉，神奈川，埼玉からも通学しやすい立地です。交通の便が良いだけでなく，水道橋・お茶の水近辺は大学などの教育施設が集まり，書店・古書店や食堂の類も多く，まさに学生の街として活気あふれるところです。さいかち坂校舎は現在あるTDC ビル，平成25年に完成予定の新館（仮称）とともにこの街全体をキャンパスとして新入生を迎えるべく，現在着々と工事が進んでいます。

新校舎は地上８階，地下１階で，３つの教室，２つの実習室，図書館の分室などを備え，原則として体育を除く第１，２学年のすべての授業がそこで行われる予定です。来年春の完成を前に，教室や実習室の設備について大学と設計会社との間で綿密な打ち合わせがなされ，最新の教育機器が導入されるだけでなく，学生にとって真に使いやすい，学びやすい環境を整えていきます。新校舎内に食堂（学食）は設置されませんが，先に書きましたように周辺には数多くの飲食店やコンビニなどが並び，豊富なメニューが提供されています。

さて，ここでの新入生の生活はどのようなものになるのでしょうか。新入生はA，Ｂ２つのクラスに分かれ，月曜から金曜の午前９時から午後４時または５時30分までをこの校舎で過ごす事になります。新入生の

生活や学習のサポートは学年主任，クラス主任，副主任の教員が中心となり，他の教員や学生課・教務課の職員とともに行います。学年主任，クラス主任や第１学年の授業を担当する教員の多くはさいかち坂校舎の教員室にいますから，これまで以上に学生と教員の距離が近く，授業に関する質問応答や学生生活に対する相談など，より密接な指導・交流が期待できます。また，移転を機に授業内容のいっそうの充実を図るため，授業を直接担当する教員と教務部を中心にカリキュラムの検討が続けられています。新入生の皆さんの中には大学での授業に不安を感じる人もいるでしょう。特に専門科目を学んでいく上で重要な基礎となる理科系科目は高校での履修状況がまちまちですから，未履修科目の授業は大きな心配の種かもしれません。そこで，第１学年の理科（生物・化学・物理）は高校での履修状況に合わせたコース別の授業になっているだけでなく，演習で基礎力の充実を図っています。それでも不安な新入生のためには補習の時間や自由に質問ができるオフィスアワーも十分に確保されています。一方で，入学したらすぐに歯科の勉強をしたい，という気持ちにも応えられるよう，病院実習を含め歯科医学入門のための授業も第１学年前期から置かれています。体育の授業については近隣のスポーツ施設を授業時間には借り切って行うという方向で現在調整が進められています。

言うまでもない事ですが，学生生活は授業だけではありません。大学での部活動，サークル活動を楽しみにしている新入生も多い事でしょう。平成24年度は第２学年以上は千葉校舎に通いますので，当面，部活動の中心は千葉校舎になると思われます。それ以降の活動場所については各部・同好会と学生部とで協議しながら今後決定していくことになります。また，部活動に限らず都心という地の利を生かして様々な事を吸収していただきたいと考えています。放課後に英会話などを学ぶこともできますし，上野まで足を伸ばして美術館や博物館巡りも良いでしょう。アルバイトをするのも良い経験になります。休日に仲間と出かける場所にも事欠きません。優秀なだけでなく人間味あふれる歯科医師としての基礎を築くことを期待しています。

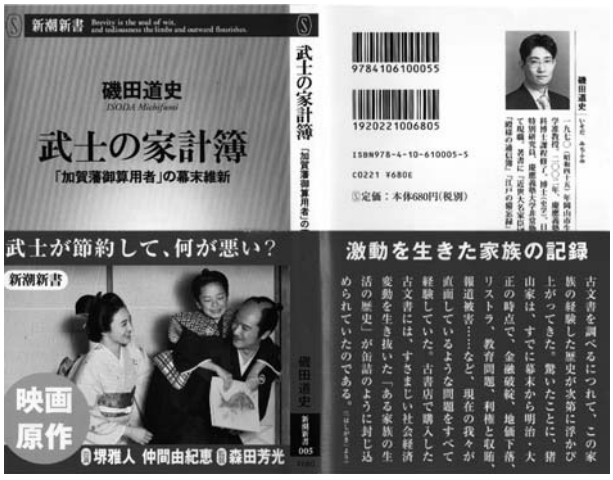
いろいろと書いて参りましたが，新入生の皆さんには是非この恵まれた環境を生かして，充実した学生生活を送っていただきたく思います。移転当初にはひょっとすると不都合な点や不便な点などがあるかもしれませんが，移転というチャンスを最大限に生かし，皆が協力して新しい東京歯科大学をつくりあげていこうではありませんか。

建設中のさいかち坂校舎

大学院セミナーのお知らせ

「武士の家計簿」と高山紀齊先生

―幕末明治の人材育成－会津，薩摩，高山紀齊―



去年12月に封切された「武士の家計簿」という映画を御存知の方もいらっしゃることと思います。その映画の原作が左の写真の本「武士の家計簿―加賀藩御算用者の幕末維新―」（新潮新書）です。著者は磯田道史先生といいます。最近テレビでコメントしている姿も時々見られます。この磯田先生が母校大学院セミナーで「幕末明治の人材育成―会津，薩摩，高山紀齊」という題名で講演されます。（同窓も出席可能）磯田先生によれば高山紀齊先生とは血縁があるとのことです。磯田先生はこのことを大変誇りに思い，東京歯科大学に大変な縁を感じ，是非講演したいと話されたそうです。

磯田道史先生は1970年岡山市生まれ，高山先生と同じ慶應大学を卒業，現在茨城大学准教授。著書には「近世大名家臣団の社会構造」，「殿様の通信簿」等があるそうです。東京歯科大学ホームページ高山紀斎小伝には「叔父の磯田軍次兵衛（岡山藩直臣）からは儒学を学んだ。磯田軍次兵衛は藩主・池田侯の養育係主任を勤めていたという」とあります。恐らくはこの磯田軍次兵衛の関係者ではないかと思われます。

「武士の家計簿」の主人公は猪山成之という加賀藩の算盤侍です。加賀藩では財政担当の部署を「御算用場」という巨大な事務組織を作っていましたが，その下級武士のエリートがこの猪山成之です。猪山成之の残した約37年間にわたる家計簿から当時の暮らし，社会を調べた本がこの「武士の家計簿」という本です。

その後，猪山成之は日本陸軍の父ともいわれる大村益次郎（司馬遼太郎の「花神」の主人公）にヘッドハンティングされ官軍の兵站にあたり，明治維新後も海軍で実務を担当していたということです。

「大村益次郎像」が靖国神社に日本初の西洋式銅像として1893年に製作されましたが，その建立に際して幹事として尽力したのが猪山成之でした。「大村益次郎像」は現在の東京ドームシティー（後楽園）にあった東京砲兵工廠で鋳造されたとその台座に記されています。しかし東京砲兵工廠内にあった平岡工場でこの銅像は作られたという説もあります。平岡　凞という人の伝記である「日本で初めてカーブを投げた男」によれば平岡の長男太郎が「牛車が工場から（大村益次郎像が）出ていく時，近所の子供たちがみなこの牛車について行ったと言い，銅像は平岡工場製と証言している」ということです。平岡　凞という人物は120周年記念誌にも登場しています。（P42）現在の東京歯科大学水道橋校舎の土地にあった元旗本屋敷に住んでいた汽車製造会社の経営者であり，わが国初の野球チームを結成した野球殿堂入り，邦楽の東明流家元などここには書ききれない面白い明治時代の人です。血脇先生に破格の値段で水道橋の土地を譲渡した東京歯科の恩人ともいえる人です。

「武士の家計簿」をめぐる不思議な人間関係のお話となりましたが，磯田先生の書かれた猪山成之が銅像製作のために，平岡　凞と打ち合わせをしていた可能性もあるでしょう。その場所がひょっとして水道橋の校舎の地だったかもしれないと想像することもできます。

大学院セミナーは次の通りに行われる予定です。

日時：11月10日（木）17時半より
場所：千葉校舎（会場は未定）

大学院セミナー担当の東　俊文教授からも「OB 諸先生がたで，もし御来校いただければ企画担当としても望外の喜びでございます。」とご連絡いただいております。興味のある同窓は大学院セミナーにご出席下さい。　（広報部会報委員会）

第15回（社）日本顎顔面インプラント学会総会・学術大会のご案内

上記学会が今年12月３日（土），４日（日）本学口腔インプラント学講座矢島安朝教授を大会長，関根秀志準備委員長のもと幕張メッセ国際会議場において開催されます。「インプラント医療を通して歯科医療の未来を考える」をメインテーマとし，プログラム概要は下記のように案内が参っております。

詳しくは第15回（社）日本顎顔面インプラント学会ホームページ http : //www. jami2011. jp/をご覧ください。

【特別講演】

「インプラント基礎研究の最前線から歯科医療の未来を考える」　井上　孝　先生
（東京歯科大学臨床検査病理学講座　教授）

「インプラント臨床の最前線から歯科医療の未来を考える」　武田孝之　先生
（千代田区開業，東京歯科大学臨床　教授）

【シンポジウム１】

（社）日本口腔インプラント学会との合同シンポジウム
インプラント治療のリスクファクターを再考する　ーそれぞれの立場からー

日本口腔インプラント学会推薦　新井　高　先生（鶴見大学歯学部　名誉教授）
萩原芳幸　先生（日本大学歯学部歯科インプラント科　科長）
日本顎顔面インプラント学会推薦　河奈裕正　先生（慶応義塾大学医学部歯科・口腔外科学教室）

【シンポジウム２】

腫瘍切除後に用いられたインプラント治療の弱点

松浦正朗　先生（福岡歯科大学口腔インプラント学講座　客員教授）
又賀　泉　先生（日本歯科大学新潟生命歯学部口腔外科学講座　教授）
佐藤淳一　先生（鶴見大学歯学部口腔顎顔面インプラント科長　准教授）
山下佳雄　先生（佐賀大学医学部歯科口腔外科学講座　准教授）

【シンポジウム３】

インプラントメーカートップは，歯科医療の未来をどのように考えるか

桐山裕二　様（アストラテック株式会社　代表取締役社長）
嶋田　敦　様（ノーベル・バイオケア・ジャパン株式会社　代表取締役社長）
Mr. Roger Heinzelmann（ストローマン・ジャパン株式会社　代表取締役社長）
中尾潔貴　様（株式会社ジーシー　国際部担当取締役）

【日本口腔検査学会の集い】インプラント治療と臨床検査についてのシンポジウムが予定されています。

☆大会参加費【歯科医師】当日参加費：12,000円，事前参加費：10,000円（５月20日～10月31日）

☆【連絡先】

第15回日本顎顔面インプラント学会総会　学術大会事務局　東京歯科大学　口腔インプラント学講座
〒261-8502　千葉県千葉市美浜区真砂１－２－２
TEL：043－270－3653　FAX：043－270－3574
準備委員長：関根秀志　e-mail : info@jami2011. jp

支部のうごき

掲示板

＊この掲示板は，同窓会ホームページ http : www.tdc-alumni.jp にも記載されています。
日程等，決まり次第，できるだけ早めにお知らせください。
印刷，発行日の都合上，会報に載せられない場合がありますが，その場合は同窓会ホームページに掲載されますので，ご了承ください。

事業種目 日　時	演題及び講師 又は事業内容	会　場	主　催 連絡先	外部より 参加可否
学術講演会 平成23年 11月13日（日） 午前９時30分	「見逃してはならない口腔粘膜疾患と千葉病院の近況」（仮題） 髙野伸夫教授 （東歯大口腔外科学講座）	天童グランドホテル 舞鶴荘 天童市鎌田本町2－4－51 TEL 023－653－3111	山形県支部 連絡先 担当・歯科医師会 TEL 023－632－8020	支部会員 同窓会員 歯科関係
学術講演会 平成23年 11月18日（金） 午後７時	「小児歯科の最近の話題」 新谷誠康教授 （東歯大小児歯科学講座）	板橋区歯科医師会館 ３階ホール 板橋区常盤台3－3－3 TEL 03－3969－6421	板橋支部 連絡先 担当・須田　希 TEL 03－3936－9960	支部会員 同窓会員 歯科関係 一般も可
学術講演会 平成23年 11月27日（日）	「歯肉と口腔粘膜をみる　～歯肉・口腔粘膜上皮の立体構造と防御機構／炎症と腫瘍の間に…～」 橋本貞充准教授 （東歯大生物学研究室）	名鉄ニューグランドホテル 名古屋市中村区椿町6－9 TEL 052－452－5511	愛知県支部 連絡先 担当・長谷部雅志 TEL 052－661－1979	同窓会員
学術講演会 平成23年 12月３日（土）	「経過から学んだ欠損歯列の読み方」 宮地建夫先生 （東京都開業）	熊本県歯科医師会館 ３階ホール 熊本市坪井2－4－15 TEL 096－343－8020	熊本県支部 連絡先 担当・堀川　正 TEL 096－381－5346	支部会員 同窓会員 歯科関係
学術講演会 平成23年 12月３日（土） 午後４時	「歯科治療時の全身管理　－事故予防と緊急対応の基礎知識－」 一戸達也教授 （東歯大歯科麻酔学講座）	松山全日空ホテル 松山市一番町3－2－1 TEL 089－933－5511	愛媛県支部 連絡先 担当・矢野興一 TEL 089－947－3939	支部会員 同窓会員 歯科関係
学術講演会 平成23年 12月４日（日）	「DNA 鑑定“超”入門　－誰でもわかる DNA 分析の実際－」 花岡洋一准教授 （東歯大法歯学講座）	ホテルマロウド筑波 土浦市城北町2－24 TEL 029－822－3000	茨城県支部 連絡先 担当・田澤重伸 TEL 029－257－3533	支部会員 同窓会員 歯科関係
学術講演会 平成23年 12月４日（日）	「臨床機能解剖学」 阿部伸一教授 （東歯大解剖学講座）	ホテルニューイタヤ 宇都宮市大通り2－4－6 TEL 028－635－5511	栃木県支部 連絡先 担当・黒田裕之 TEL 0285－53－0235	支部会員 同窓会員

中国地域支部連合会

中国地域支部連合会総会と記念学術講演会が，去る平成23年６月25日(土)，来賓に副学長井出吉信先生(現学長)，同窓会会長大山萬夫先生，歯科保存学講座講師加藤広之先生，同窓会専務理事髙橋義一先生，同窓会常任監事原　武仁先生，中国地域選出理事山根康雄先生をお招きして島根県松江市の「ホテル一畑」にて中国５県から約70名の同窓の先生方にお集まりいただき開催されました。２時半から，島根県出身の歯科保存学講座講師加藤広之先生に２時間にわたり「信頼の歯内治療を考える」と題して記念学術講演をしていただきました。４時半より中国地域支部連合会総会が行われ連合会会長の高木瑞穂先生の挨拶に始まり，来賓挨拶として，大山萬夫同窓会会長よりこの度の東日本大震災について，まず当日の東京の様子と被災地を訪れた時の被災地の惨状また被災された同窓の先生方の状況についてお話頂きました。つづいて井出吉信副学長から大学の現状報告として水道橋移転に関する現在の状況と今後の予定，大学入試と国家試験の現状，寄付のお願いなどのお話をしていただきました。最後に髙橋義一同窓会専務理事から同窓会本部について特に同窓会改革についてお話頂き総会を恙無く終了しました。６時から記念撮影を行い，６時半から懇親会が行われました。地元のジャズバンドによる歌と演奏を聴きながら大いに盛り上がりました。最後は，次期当番県の小徳省三鳥取県支部長の万歳三唱，山根中国地域選出理事の閉会の辞で幕を閉じました。２次会も同ホテルのスカイラウンジ「バミリオン」で盛り上がり，その後は夜の松江にそれぞれ散っていきました。翌日26日には出雲空港カントリー倶楽部にて親睦ゴルフが行われました。　　(青戸弘陽　記)

埼 玉 県 支 部

平成23年度総会及び学術講演会開催

去る７月10日（日），ヘリテイジ飯能におきまして平成23年度東京歯科大学同窓会埼玉県支部総会と学術講演会が開催されました。

まずは総会に先立ち学術講演会が行われました。今回は東京歯科大学臨床検査病理学講座准教授松坂賢一先生に「臓器はどこまで造れるか」という演題で，日本および世界で行われている再生医療の動向を挙げるとともに，本学で行われている再生医療につながる基礎的研究についてご講演いただきました。

引き続き行われました総会は，幹事長の高橋章雄先生の司会で幕が開き，副支部長の春山良夫先生の開会の辞，物故会員に対する黙祷の後，支部長の成田賢二先生が挨拶されました。来賓の東京歯科大学同窓会会長の大山萬夫先生には最近の同窓会の動向，本年７月より東京歯科大学学長になられました井出吉信先生には本学の様子や移転に関する進捗状況などを交えてご挨拶いただきました。また，東京歯科大学同窓会副会長の関　泰忠先生にもご挨拶いただきました。

総会議事に入り，議長に森山和郎先生，副議長に藤波　齊先生が選出され，会議は順調に進行し，第一号議案：平成22年度収支決算の承認を求める件，第二号議案：平成23年度事業計画の承認を求める件，第三号議案：平成23年度予算の承認を求める件，の議案が承認されました。次期役員についての第四号議案は，次期支部長候補の春山良夫先生を中心とした人選で承認されました。協議事項の後，副支部長馬橋亟男先生の閉会の辞にて平成23年度総会は滞りなく終了いたしました。

懇親会は副庶務の野原英彦先生の司会で始められ，総会開催地区の川口　浩先生の開会の辞で幕が開き，埼玉県歯科医師会副会長小杉国武先生にご挨拶いただき，埼玉県歯科医師会前監事の増田紀男先生の乾杯で祝宴となりました。綺麗処を横目に見ながら美味しい料理に舌鼓を打ち，少々お酒も入って楽しいひとときを過ごし懇親を深めました。元合唱部の大和田一彦先生，石塚一美先生をソングリーダーとして校歌斉唱を行ない，副支部長の粟生田友三先生の閉会の辞にてお開きとなりました。　（海野　智 記）

横浜鶴見支部

８月27日(土)午後６時より，川崎「マダン」において，会員・家族レクリエーションが15名参加のもと開催された。

横浜周辺で世界の料理を食べ尽くそうという企画の第６弾は，韓国料理である。韓流ブーム。特に今年はK-POPが大ヒットしたが，「色気より食い気」本場韓国料理と炭火焼肉を旨い酒とともに味わい盛り上がろうという企画である。

開会に先立ち，去る３月17日にご逝去された酒井眞一前会長のご冥福を祈り，全員で黙祷を捧げた。酒井先生は今回の韓国料理を大変楽しみにされていたので本当に残念でならない。

はじめに佐藤秀夫会長が挨拶した後，韓国料理，焼肉が次々とテーブルへ運ばれる。目線は大皿に盛られた肉に集中。早くも全員焼肉臨戦モード。

キンキンに冷えた生ビール，韓国料理にはかかせないマッコリが手元に届いたところで参加最年長の香山欣哉先生が声高らかに乾杯。韓国流に杯を一気に飲み干して宴会開始である。

まずは，サムキョプサル（三段バラ：豚バラの三枚肉）を焼肉で楽しむ。焼肉のお供には自家製キムチ，店一番人気のトッポギ（韓国風もちの唐辛子煮），チヂミ（韓国風お好み焼き），コラーゲンたっぷりのサムゲタン（鶏の煮込みスープ）。炭火焼き肉はカルビやハラミ。どれも美味しくお酒も進んだ。

鶴見東歯会は肉好きが多く，毎年の忘年会「正木屋」の後は焼肉が定番である。案の定，コースの焼肉では足りずに「上ロース」「上ハラミ」「特上たん塩」と締めの「石焼ビビンバ」を４人前ずつ追加注文。あっという間に平らげた。

途中，会員近況報告が行われ，「ひと夏の思い出」をテーマにそれぞれが今夏を振り返った。会員は「淡い思い出」どころか，運動不足で三段腹になり始めたので毎朝ラジオ体操をして息を切らしているとか，経営状況が依然好転せず困っているなどと相変わらず。一方で参加最年少の小学３年生は自慢の手品を披露。「夏休みが終わってしまうのは淋しいけど早く学校の友達に会いたい」とキラキラした眼で語った。

宴もたけなわになったところで吉田礎久先生の閉会の辞によりお開きとなった。

我々の食欲は留まるところを知らない。２次会は，川崎のうなぎの老舗「松直」へ。卵焼き，鰻の白焼き，上鰻重を冷酒とともに。心もお腹もすっかり満足し夏の疲れも吹っ飛んだ。　　（宇佐美貴弘 記）

写真が同窓会ホームページ≪http：//www.tdc-alumni. jp≫に掲載されています。

横浜南部支部

会員・家族レクリエーション開催

平成23年８月21日。真夏とは思えないほどの肌寒さを感じた日曜日。当支部恒例の夏のレクリエーションが開催された。今回は，昨年末の総会・忘年会で村岡　斉会員が現住所の佃島を紹介されたご縁で，江戸情緒溢れる隅田川下りと佃島を訪ねてみることになり，貸切バスでの小旅行と洒落こんだ。

玉井達人支部長の懇望により，杉山紀子神奈川県支部連合同窓会副会長を旅のお客様としてお招きし，一行10名はマイクロバスに乗り込んだ。

最初の目的地，両国の江戸東京博物館では，女性案内者の解説のよろしきを得て，江戸時代の城内のしきたり，大名の暮らし，商家の様子，庶民の生活などがわかりやすく見学できた。

昼食は浅草の「駒形どぜう」で名物どぜう鍋を堪能した。浅い鉄鍋に溢れんばかりに並べられたどじょうの上に，刻んだ葱をふんだんに振りかけて食べる熱々のどぜう鍋。当然

ビールは進むやらご飯はお代わりするやらで大忙し。すっかり満腹となったところで水上バスに乗り込み，こんどは隅田川クルーズを楽しんだ。吾妻橋，駒形橋，厩橋，蔵前橋，両国橋，永代橋，勝鬨橋など，江戸の趣が漲る橋を次々とくぐり抜け，都会のオアシス，浜離宮恩賜庭園へ。ここで，所用のため遅参された浜野文夫相談役が合流。

浜離宮からは再びマイクロバスでいよいよ佃島へ。住吉神社を参詣し，付近を散策。小雨模様のなか，爪弾きの三味線の音色がチントンシャンと聞こえるあたり，さすがに風情ある土地柄を感じさせた。古典落語「佃祭」の名場面，「佃の渡し」の渡し場付近に軒を並べた佃煮屋さんで銘々お土産を購入。そして佃島をあとに最後の目的地，月島のもんじゃ焼き屋へ移動。

昼食のどじょうがまだ腹の中で踊っていたにも拘わらず，美味しそうなもんじゃ焼きの焦げる匂いが鼻腔を刺激すると，たちまち胃袋が反応して完全にリセット。もんじゃの食べ方にいちいち能書きを言って食べる同級生の話題などで盛り上がり，またしても満腹状態。

心身共に充分な満足感とともに，佃島をあとに帰路についた。素晴らしいレクリエーションを企画された鈴木信治専務理事，浅川　仁厚生担当理事，佃島の村岡君に感謝いたします。ありがとうございました。

（渡邊宇一　記）

写真が同窓会ホームページ≪http：//www.tdc-alumni. jp≫に掲載されています。

新 潟 県 支 部

平成23年度総会

去る６月25日(土)，上越市「長養館」において今年度の同窓会新潟県支部総会が，来賓として片倉恵男同窓会副会長，母校より大学院研究科長の井上　孝教授並びに母校同窓の新潟大学歯学部教授齊藤　力先生をお迎えし，同窓34名の参加を得て開催されました。

総会は，岡田泰幸先生による開会の辞に始まり，田嶋繁男先生を議長に選出し，高垣順吉支部長挨拶の後，ご来賓からは，片倉恵男先生より会務運営状況，井上　孝先生からは母校の近況，大学の移転事業に関わるご報告等，また，この度の東日本大震災の犠牲者の身元確認のための検死活動に携わられた北村信隆先生よりご報告がありました。引き続き諸報告，及び東日本大震災で亡くなられた方々並びに物故会員へ黙祷を捧げた後，議事・協議に移り，五十嵐　治副支部長の閉会の辞にて総会を無事終了しました。

総会終了後，特別講演会として，先般発刊された新潟県歯科医師会創立100周年記念誌の編纂にあたり顧問としてご尽力いただいた日本歯科医史学会評議員の佐藤泰彦先生より「写真で見る石塚三郎先生の事略とゆかりの人々」と題したご講演，記念学術講演会として埼玉県幸手市開業の母校同窓高柳篤史先生を講師にお迎えし，「歯磨きの常識・非常識～科学的視点で考える，歯磨き成功へのアプローチ～」と題したご講演を拝聴しました。

記念撮影の後懇親会となり，小林由明先生司会のもとで宴は始まり，永井　謙先生の地元歓迎の挨拶，高垣順吉支部長，ご来賓挨拶と続き，五十嵐　治副支部長発声による乾杯の音頭の後，終始和やかに懇親の情を深め，大いに楽しい夜を過ごしました。恒例となっている八百枝正樹先生のリードで校歌斉唱し，盛会の中，永野正司先生による万歳三唱，閉会の辞にて終宴後も，二次会へと親睦の輪を広げました。

なお，今年度の会場となった上越市「長養館」は，明治40年，特別講演で事績をご紹介いただいた母校同窓の石塚三郎先生を初代会長に選出した第１回新潟県歯科医師会総会が開催された場所であり，同窓会のみならず黎明期の新潟県歯科界にとって由縁のある，往時の佇まいそのままの「長養館」での総会設営にあたりご尽力いただいた地元の先生方に感謝申し上げます。

（宇佐美祐一　記）

愛知県支部

平成23年度学術講演会

７月３日(日)午後２時より，名古屋錦アパホテルにおいて標記学術講演会が開催されました。「超高齢社会における口腔病変への対応」と題して東京歯科大学名誉教授（前オーラルメディシン・口腔外科学講座主任教授）の山根源之先生にご講演頂きました。本年は若手の先生の出席割合が多く，出席者は46名でした。

橋本雅範常任理事による開会の辞及び司会進行のもと，山田　有会長の挨拶，そして東日本大震災で被災された方々への黙祷の儀が行われ，山根名誉教授のご講演へと続きました。

山根先生は，昨今の歯科界を取り巻く社会環境，患者のニーズの変化，それらに応えうる歯科医師の使命，これらを再認識せよ，と提唱されました。すなわち我々歯科医師は，自己研鑽を重ね，患者背景に潜む多くの情報を読み取る力を養い，総合診断力を高めていかなければならない。その為にはオーラルメディシンの修得は必須であろう。その上でその能力を生かすには，患者と正面から向き合い，患者目線に立ち，伝達して行かねば成らない，とお話になられました。たくさんの臨床スライドにおいては，山根先生の歯に衣着せぬ物言いが小気味良く，患者さんの主訴，思い，願いなど患者さん自身の言葉を引用しつつ，「こんな患者さんが来院したらどうしますか？」などと問いかけながら進行して行き，より臨床感が増し，身の引き締まる，明日からの臨床に役立つ

とても有意義なご講演でありました。

舌模型による触診のデモも行われました。そして，活発な質疑応答の後，成瀬　健副会長の閉会の辞にて本講演の幕を閉じました。

講演会終了後，会場を移動して懇親会が催されました。長谷部雅志専務の司会進行のもと，河野幸壱副会長の挨拶，夫馬眞也監事の乾杯の音頭で開宴となりました。愛知県支部には，東京歯科大学市川病院に所縁の先生も多くおみえになり，大橋俊樹先生と梅村長生先生のお話，山根先生を囲んでの談義と終始和やかな雰囲気の内に会は進み，そして山田会長による閉会の辞にて幕引きとなりました。最後になりましたが，山根先生は，口腔ガンの早期発見，予防を歯科医師の大切な使命の一つに位置付けており，現在，千葉県歯科医師会等と連携して，液状細胞診システムの構築に努めておられ，それがもっともっと大きく日本中に広がっていくようご尽力されています事をご報告申し上げます。

（日比浩樹 記）

京　橋　の　今

中央区京橋地区

日本の歯科医の発祥の地，それは明治時代の銀座でした。

その地に明治30年頃７名の歯科医をもって懇親会組織『京和会』が発足しました。

この『京和会』を母体とした京橋歯科医師会は大正９年（1920），東京市歯科医師会の京橋区支部として設立されました。

当初は20余名だった会員も90年後の現在では260余名を数えるに至っています。とは，京橋歯科医師会のHP に載っている一文であります。

京橋歯科医師会の位置的範囲としては，東京駅の南口から西は銀座，南東の晴海まで東は京橋，南東の佃あたりの歪なひし形とかなり広範囲でありまして，今回は京橋にしぼっていきたいとおもいます。

京橋地区は，重厚な日本橋とまばゆい銀座にはさまれ，かつては大企業の本社が200社以上も鎮座し，オフィス街やビジネスマンのまちとして発展をとげてきましたが，実際街を歩いてみますとおもむきのある路地，老舗を思わせるお店やなぜかたくさんある画廊，文化財にでもなりそうな重厚なビルもあり，趣味の街といったところです。

ただ，この地区の今の現状は再開

発の真っ只中，一軒屋や小規模ビルが次々に壊され跡地は駐車場になり大企業も撤退しまさに歯抜けの更地が目立ち，趣のあった路地裏，昔ながらのお店もなくなり寂しいかぎりといった状態になっております。又，京橋２丁目，３丁目は再開発が始まり着々と大規模なビルが建設中です。

10数年前は，大企業のビジネスマンであふれ，老舗の寿司や，小さいながらも独自の味をだす焼き鳥のお店，おでん屋，などが軒を並べ昔ながらのタバコ屋までもあったのが懐かしいかぎりです。ただ今もあるのは人情に厚く江戸っ子気質をもった人ががんばっていることでしょう。一見とっつきにくく，頑固一徹の所はありますが懐に入ってしまえば世話ずきでまっすぐな人々なんです。

このような人々が住む京橋には２

年に一度神田祭と交互に行なわれる山王日枝神社の山王祭もなかなか観る価値ありで，おごそかな平安絵巻のように神輿や山車，そして神馬，巫女さん，宮人などの行列が練り歩き，日を替え神輿が京橋の町を巡り，各おみせの軒先には提灯がぶらさがる，なかなか東京のど真ん中では，とくに高層ビルの谷間ではお目にかかれない情景です。

このような京橋地区はあと５～10年で大きく変わろうとしていますが，良い意味での新しいものと古くからのものとの共生を成し遂げ独特の新旧が融合した形に成っていってもらいたいものです。

皆様も，現京橋と５～10年先の京橋を見比べてはいかがですか。ぜひお祭りの日にでも足を向けてみてください。（昭和60年卒　渡邊克雄）

クラス会だより

クラス会開催日程

十　期　会（昭和37年卒）	と　き	平成23年11月12日（土）～13日（日）
	ところ	東京ドームホテル（13日バス旅行）

弥　生　会　　昭和54年卒

川口　浩衆議院議員の活動と「衆議院議員川口　浩君を磨く会」

川口　浩先生が衆議院議員になりまして早いもので２年がすぎました。川口議員からも「この間，同窓の先生方には川口　浩の政治活動に格段のご理解ご支援を賜りましたことに厚く御礼申し上げます」とのことでございました。

川口議員最近の活動報告では，今年の通常国会において歯科界の長年の悲願でありました「歯科口腔保健法」が成立致したこと，また以前より取り組んでいる「歯科医師需給問題」でも文部科学委員会にて質問に立ちました。その中で次のような質問がありましたことをご紹介いたします。「中でも，臨床実習の抜本的改革は急務ではないかと思います。質の高い医療を提供するためには，ただ単に国家試験に通るためだけの学問ではなく，医療人としての学問を学び，体験することが絶対的に必要だと思います。」「震災直後から７月末日までで，延べにして2,599名の歯科医師が身元確認に動員され，多数の身元確認に尽力をいたしてまいりました。これは世界でも例のない数字でございます。」また左の写真は宮城，福島避難所での川口議員訪問診療写真の一枚です。

去年に引き続きまして，現在川口議員が取り組んでいる日々の政策課題を報告する「衆議院議員川口　浩君を磨く会」を下記の通り開催するとのことです。できましたなら同窓の先生方のご協力よろしくお願いいたします。

記

衆議院議員　川口　浩　君を磨く会

日時：平成23年11月24日（木）
　　18：00より

場所：ANA インターコンチネンタルホテル東京
　　「プロミネンスⅡ」

会費：２万円

＊詳しくは衆議院議員川口　浩事務所までお問い合せ下さい。
TEL　03－3508－7526
e-mail ; hiroshigr @ kawaguchi-hiroshi. com

（三友和夫 記）

訂正とお詫び

会報「第382号」に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

P43　クラス会だより・クラス会開催日程・いとし会（昭和24年卒）
　正：平成23年10月13日（木）
　誤：平成23年10月23日（日）

四　期　会

昭和31年卒

2011年６月19日（日）にホテルオークラ東京クリホードの間において80歳（傘寿）のお祝いを開催した。12時の受付開始の前から懐かしい顔が集まり，あちらこちらで元気な笑い声が飛び交っていました。太田幹事の司会で12時30分から会が始まり，開会の挨拶を北村幹事が行い，暑いところ遠方から参集され有り難うとお礼を述べられた。高橋（一）幹事代表から，われわれは戦後間もなくの昭和30年から環境変化の著しい平成の時代を乗り越えてここに傘寿を迎え，今回お祝いの会を開催できるのは真に喜ばしいことで健康に感謝したいと思います，と挨拶が述べられた。太田幹事から，前回，卒後50周年のクラス会以降の報告がなされた，その後に亡くなられたクラスメートのご冥福を祈り黙祷が捧げられた。次に梅原幹事から会計の報告があり，全て了承された。

協議事項が提案され，本日の会の補助金を差し引いた残金の取り扱いについて，１）母校創立120周年記念として10万円を寄付すること，２）次回，例えば卒業60周年記念，あるいは米寿の会（88歳）が開催出来ることを予定して，残金を連絡費として残すことを提案し，全て承認された。宴会に先立ち松本君から現在体調不良だが，今日の会に出席して旧友と歓談し，闘病の経過を話した，皆から励まされて元気良く帰られた。国府田君が全員の記念写真を撮り，九州の宮崎から参加された西山君の乾杯の挨拶からようやく宴会が始まった。ホテル内の中国料理店桃花林の特別メニューと呑み放題の豪華な内容で満足の様子でした。ほどなく全員各自の近況が，楽しい笑いに包まれながら報告され，時間が足りないほど続きました。閉会は川越君からで，久し振りに皆さんの年を感じさせない元気な様子を見た。これからも各自健康に気を付けながら，次回の会を楽しみにまたお会いしましょうと挨拶をされた。翌日，取手国際GCで（太田，梅原夫妻，伊藤，川越，井上，荒井）の７名によるゴルフコンペも行われた。スコアーはともかく，この年齢で仲間と楽しくゴルフができる喜びを感謝しながら，楽しい一日を過しました。

クラス会傘寿の会出席者氏名

（敬称略）

荒井　茂，井上藤夫，伊藤成章，梅原愛三夫妻，太田　寛，鬼久保小百合，川越文雄，北村晴彦，國府田清史，小林則夫，髙北義彦，鈴木琢雄，田代　亘，高橋邦武，高橋一祐，西山成實，野口八九重，古田一男，松本圭司　　以上

（太田　寛 記）

シ チ ヤ 会

昭和48年卒

昭和48年卒業のクラス会シチヤ会が，７月17，18日に北海道苫小牧で開催されました。

例年にない雨続きの北海道でしたが，36名の参加があり楽しい時間を過ごすことができました。

参加者の一人として，幹事をつとめていただいた麻生先生はじめ北海道地元のみなさまありがとうございました。

会場として用意していただいた苫小牧ホテルニドムは，北海道らしく敷地内にサイクリングコースまである広々とした舞台で，フロントで受付をすませた参加者を各客室までマイクロバスで送ってくれるというびっくり仕掛けで迎えてくれました。賀来先生用意のカメラで一同記念写真撮影。その後会議室では冒頭に内山先生からの大学の現状報告，神戸の辻本先生から平成７年阪神淡路大震災で被災体験，茨城の荒野，小舩先生からはまだまだ復興途上の東北大震災の状況を生で聞かせていただきました。それぞれに貴重な話で，深刻な被害を被って今なお大変なご苦労をされている福島の川崎先生，宮城の鈴木先生への想いも新たにした次第です。

会議後の懇親会，二次会は料理，会場もすばらしく気持ちよく大学入学以来の想いを披露した人もあり，孫の話に花が咲いたり年金生活の話あり，また目一杯カラオケでがなったり市川時代を思い出すような楽しい時間を持つことができました。

更に会前後のゴルフを楽しんだ人，終了後レンタカーなどをくりだしはるばるやってきた北海道を満喫していった人もあり大変に盛り上がった会でした。

重ねて，今回の機会を作っていただいた皆様に感謝します。参加者の一人としてありがとうございました。

次回は間もなく迎える40周年を期して，東京地区で開催の予定です。

参加者は，麻生，磯，石田，宇井，菊池，永田，西宮，辻本，原岡，村山，堀川，平尾，真壁，萩野(田村)，布施，賀来，中村，矢島，和田，塩崎(金子)，多田(野田)，土屋(池田)，細矢，山本，今井(中山)，緒形(小野)，荒野，内山，前田康英，小舩，荻原，山下，木村，田村　進，林(寺尾)，林でした。　　(林　量一 記)

OB 会・グループ・サークルだより

第２回バスケットボール部 OB 会（還暦を祝う会）

昨年より始まりました「還暦を祝う会」，今年も７月17日に多数の OB 参加により無事行うことが出来ました。昼12時に北は北海道，南は九州全国から，この日を楽しみに遠路より稲毛体育館に集合しました。１時から60歳以上の OB 対現役女子部が10分クオーターで試合が行われました。今年もガチンコでしたがなんとか勝利しました。最後に現役男子と OB が試しに試合をしてみましたが，残念ながら惜敗しました。佐々木先生・野田先生・勝俣先生の親子（共に OB）競演という楽しい場面もありました。

ユニホームはもちろん赤色で，現役時代と同様のスリムな体型を維持しておりました。天気予報は連日35

度を越える猛暑を伝え，この日も朝からニュースで『熱中症になりやすい暑さで運動は充分に注意するように』と警報が出ていましたが，我がバスケ部全員のテンションはさらに高く，最後までエネルギー全開で試合が行われました。去年肉離れの怪我がありましたが，今年は誰一人怪我も無く，若さ一杯の楽しい OB 戦となりました。試合終了後還暦 OB よりオールデンタルへの激励金

が渡されました。

最近「成人式」に対して，還暦を第二の人生の出発として祝う「還暦式」と呼ばれるものが行われ始めているそうですが，バスケ部では OB 戦が還暦式の一部になってきました。バスケ部は還暦さらに喜寿・米寿と一生体力維持が目標になりました。

夕方５時から稲毛駅近くのイタリアンレストランで OB，OG による懇親会も現役時代と変わらぬ食欲？で盛大且つ和気藹々とした会が行われました。来年の健闘を誓って閉会となりました。

翌18日は東千葉 CC で懇親コンペも行われました。

今年還暦を迎えられた参加者

東日本大震災に負けず参加された黒澤祐一先生（51年卒）

遠く高知より沖　義一先生（51年卒）

体育教授の中村光博先生

還暦おめでとうございました！

（昭和53年卒　玉手　收 記）

東京歯科大学 OB 合唱団

第38回定期演奏会開催のご案内

東京歯科大学 OB 合唱団は下記のとおり第38回定期演奏会を開催いたします。

日　時　平成23年11月20日（日）
　　開場14時30分　開演15時00分

場　所　東京建物八重洲ホール（東京駅八重洲口徒歩３分）
入場料　無料

庶　務　日　誌

９月

1)　理事会

９月17日(土)　第４回理事会

2)　委員会

９月１日(木)　事業推進部（運営委員会）
５日(月)　事業推進部（企画会議）
５日(月)　会則検討チーム打合せ会
６日(火)　事業推進部（若手研修委員会）
６日(火)　事業推進部（保険委員会）
７日(水)　事業推進部（大学・同窓連携委員会・インプラントセミナー運営委員会）
12日(月)　広報部（会報委員会）
20日(火)　事業推進部（大学・同窓連携委員会）
21日(水)　事業推進部（シンクタンク委員会）
22日(木)　会則検討チーム打合せ会（作業部会）
22日(木)　事業推進部（大学・同窓連携委員会・インプラントセミナー運営委員会）
26日(月)　事業推進部（学術委員会・企画会議）
27日(火)　事業推進部（シンクタンク委員会）
28日(水)　事業推進部（学術委員会・研修委員会）
28日(水)　広報部（ホームページ委員会）
29日(木)　事業推進部（学術委員会・運営委員会）

3)　出張

９月３日(土)　関東地域支部連合会総会（山梨県支部担当）
大山会長, 髙橋専務理事, 長久保理事出席
10日(土)　北海道地域支部連合会総会（十勝支部担当）
大山会長，梅村副会長，戸田理事出席
卒後研修会　講師・小宮山弥太郎臨床教授（母校）
11日(日)　東海地域支部連合会総会（三重県支部担当）
矢﨑副会長, 髙橋専務理事, 井口理事出席
17日(土)　鳥取県支部総会
学術講演会　講師・橋本貞充准教授（母校）

4)　事業

９月３日(土)　TDC インプラントセミナー・マスターコース
４日(日)　TDC インプラントセミナー・マスターコース
８日(木)　TDC 卒後研修セミナー〔卒研セミナー№４イブニングセミナー（「スタンダードプリコーション」～感染に対する正しい知識～）
８日(木)　東歯関係日歯役員・代議員，都道府県歯会長と同窓会役員との懇談会
15日(木)　東日本大震災チャリティー同窓会主催全国ゴルフ大会
26日(月)　全国社会保険指導者懇談会・懇親会

10月

1)　理事会

10月８日(土)　第５回理事会

2)　委員会

10月６日(木)　会則検討チーム打合せ会
12日(水)　広報部（会報委員会）
18日(火)　事業推進部（学術委員会・企画会議）
24日(月)　事業推進部（学術委員会・プログラム委員会）
25日(火)　広報部委員会（ホームページ委員会）
26日(水)　事業推進部（学術委員会・研修委員会）
28日(金)　総務・厚生部（厚生委員会）
31日(月)　事業推進部（学術委員会・運営委員会）

3)　出張

10月１日(土)　北陸地域支部連合会総会（富山県支部担当）
大山会長，宮地副会長，髙橋専務理事，宮本理事出席
学術講演会　講師・小田　豊教授(母校)
１日(土)　信越地域支部連合会総会（長野県担当）
片倉副会長, 臼井常任理事, 飯島理事出席
学術講演会　講師・福田謙一准教授（母校）
５日(水)　東京地域支部連合会学術講演会　講師・藤本順平先生（東京都開業）
15日(土)　九州地域支部連合会
矢﨑副会長，髙橋専務理事，濱田理事出席
16日(日)　岡山県支部創立80周年記念式典・祝賀会　大山会長出席
18日(火)　城東・深川支部合同学術講演会（城東支部担当）　講師・吉澤信夫先生(山形大学名誉教授)
29日(土)　北多摩支部学術講演会　講師･久保周平講師（母校）

4)　事業

10月１日(土)　TDC インプラントセミナー・マスターコース
２日(日)　TDC インプラントセミナー・マスターコース

下記の会員が逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表し心からご冥福をお祈り申し上げます。

（敬称略・届出順）

●昭 17.9 卒　板　澤　浩　男（90歳）　23. 7.28
宮城県支部　〒985-0004　塩釜市藤倉2－1－3
●昭　26　卒　近　藤　美千夫（83歳）　23. 8. 6
愛知県支部　〒470-0451　豊田市藤岡飯野町208－1
●昭　26　卒　和　田　　寛（81歳）　23. 8. 7
大阪府支部　〒570-0081　守口市日吉町2－13－12
●昭 20.9 卒　永　江　敬　之（88歳）　23. 8. 9
福岡県支部　〒839-0212　みやま市高田町江浦町537－2
●昭 17.9 卒　成　田　　實（92歳）　23. 8.15
豊 島 支 部　〒171-0052　豊島区南長崎1－11－10
●昭　23　卒　成　田　嘉　則（84歳）　23. 8.23
愛知県支部　〒441-8021　豊橋市白河町80
●昭　39　卒　鉢　嶺　清　有（73歳）　23. 7. 4
北多摩支部　〒181-0011　三鷹市井口3－13－7
●推 薦 会 員　水　島　広　一（79歳）　23. 1.31
練 馬 支 部　〒176-0005　練馬区旭丘1－26
●昭　23　卒　橘　高　吉　人（85歳）　23. 8.28
宮城県支部　〒981-3204　仙台市泉区寺岡1－25－1－706
●平　4　卒　佐　藤　る　り（43歳）　22.10.23
千葉県支部　〒297-0017　茂原市東郷1330
●昭　3　卒　桜　井　武　臣　不明
●昭　38　卒　井　崎　明　夫（74歳）　23. 8.31
横浜南部支部　〒232-0064　横浜市南区別所3－26－31
●昭　14　卒　森　　茂　樹（93歳）　23. 9.12
三重県支部　〒511-0513　いなべ市藤原町下野尻419
●昭　37　卒　田　中　久　雄（73歳）　23. 9.13
本 郷 支 部　〒113-0023　文京区向丘2－17－18
●昭　25　卒　岡　本　纓　二（82歳）　23. 9.19
愛知県支部　〒510-8122　三重郡川越町豊田523－1－602
●昭　55　卒　三　澤　繁　衛（58歳）　23. 9.20
宮城県支部　〒989-0253　白石市字東小路110
●昭 18.9 卒　細　尾　純　造（88歳）　23. 9.21
北 信 支 部　〒381-2405　上水内郡信州新町大字新町50
●昭 18.9 卒　塩　田　尚　文（88歳）　23. 9.25
香川県支部　〒766-0002　仲多度郡琴平町156
●昭　36　卒　船　坂　玄　次（75歳）　23. 9.25
練 馬 支 部　〒179-0075　練馬区高松5−13−1
●昭　22　卒　戸　田　　裕（85歳）　23. 9.25
神奈川西湘支部　〒254-0042　平塚市明石町26－6
●昭 17.9 卒　大　野　　実（90歳）　23. 9. 9
愛媛県支部　〒157-0066　世田谷区成城5－22－2

◆投 稿 規 定

(1) 原稿締切り
原稿の締切りは，奇数月の10日までとし，原則として翌月発行の会報に掲載いたします。

(2) 投 稿 様 式
投稿は原稿用紙に横書きとし，便箋などの使用はご遠慮ください。ワープロ使用の場合は1行16字で設定して下さい。写真はピントのあったものを，大きいサイズ（2L など）で，集合写真のみでなく，スナップなども添えて下さい。

(3) 投 稿 字 数
① 「すいどうばし」欄（随想，詩，短歌，時評など)は，１編1,600字程度
② 「支部のうごき」「クラス会だより」は，本文のみの場合1,600字程度。写真が入る場合，３段抜き900字，２段抜き400字，１段抜き200字減らして下さい。
③ 「追悼」は，500字程度

(4) ご投稿いただいた原稿は原則として原文のまま掲載いたします。ただし，紙面の都合により加筆削除等お願いすることがありますので，ご了承下さい。
なお,掲載については委員会にご一任いただきます。

(5) 写真等の返却
写真等は，原則として返却いたしませんが，特に貴重な写真などの場合は，その旨書き添えて下されば返送いたします。
写真は同窓会ホームページにも掲載されることがあります。

電子メールでの投稿は同窓会ホームページhttp : //www.tdc-alumni.jp/membersonly/kouhoubu.php をご覧下さい。

◆へんしゅうこうき

★ 3.11から６ヵ月以上経ち，雪が舞っていた被災地は，猛暑の夏も過ぎ，紅葉を迎える季節となった。
　７月初め，気仙沼を訪ねた。被災地に行って，見て，そして話しを聞くと，マスコミ報道とは違った面が見えてくる。何もかも失われた町，瓦礫の山，そんな状況でも，自力で復興に向けて歩んでいる庶民の力強さが伝わってくる。それに比し，場当たり的な国の対応は，あまりにも情けない。今度発足したどじょう内閣の野田政権には，被災者の声は届くであろうか。

★ 今度の災害は，明治維新，第二次大戦後に匹敵すると指摘する人がいる。封建国家から近代国家へ，軍国主義から民主主義へと，一夜にして，それまでの価値観が逆転した。そして，今回は，エネルギー革命である。きらびやかさを競ったネオン，広告塔，24時間営業のコンビニ，旬の無い野菜や果物，熱帯夜を解消するエアコン，大規模な遊戯施設等々（この施設での消費電力は，５万世帯分と聞く)。これらエネルギーの「過剰消費」は，すべて悪魔（人智を越えるもの，としての表現）からの恩恵で成り立っていたことを，皆思い知らされた。そして，一旦悪魔が暴走をはじめると，それを止める術が無いことも，はじめて知った。今，日本全体が，意識革命，ライフスタイルの変革を求められている。今回の大震災は，我々に重大な警鐘を与えたのかも知れない。

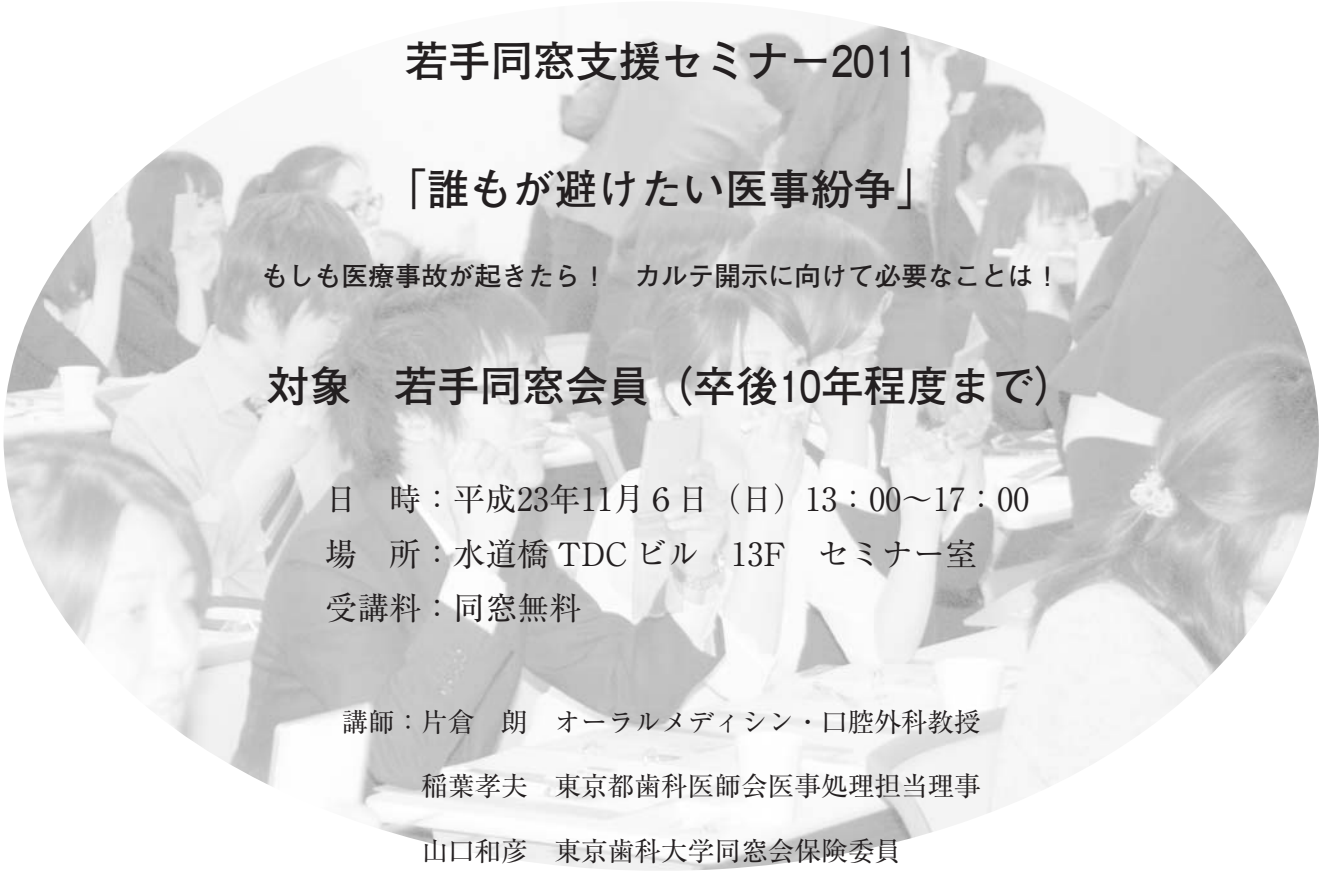
★ 同窓会は，３月13日に，いち早く対策部会を設置し，被災地の状況と会員の情報を収集し，被災地，および被災した会員への支援を開始した。現地からの情報も，刻々と寄せられ，また，被災地での会員の奮闘ぶりには敬意を表する。
　明治維新を成し遂げ，戦後の復興を果たしたように，今回も日本は，必ず立ち直ると確信する。
（東郷　幹夫 記）

広報部委員会
委員長　三友　和夫
委　員　東郷　幹夫
小池　　修
古澤　成博
志村　圭子
福井　雅之
渡邊　宇一
島田　　篤

広報部担当理事　臼田　　準

平成23年10月20日　印刷
平成23年10月25日　発行
東京歯科大学同窓会会報　第383号
同窓会ホームページアドレス
http://www.tdc-alumni.jp

発行人　臼　田　　準
編集人　三　友　和　夫
東京歯科大学同窓会
〒101-0061　東京都千代田区三崎町2－9－18
電　話（03）5275－1761
ＦＡＸ（03）3264－4859
印刷所　一世印刷株式会社
〒161-8558　東京都新宿区下落合2－6－22
電　話（03）3952－5651（代）



若手同窓支援セミナー2011

「誰もが避けたい医事紛争」

もしも医療事故が起きたら！　カルテ開示に向けて必要なことは！

対象　若手同窓会員（卒後10年程度まで）

日　時：平成23年11月６日（日）13：00～17：00
場　所：水道橋 TDC ビル　13F　セミナー室
受講料：同窓無料

講師：片倉　朗　オーラルメディシン・口腔外科教授
稲葉孝夫　東京都歯科医師会医事処理担当理事
山口和彦　東京歯科大学同窓会保険委員

テレビや新聞で最近報道されている医療事故。明日は我が身かもしれません。
未然に防ぐにはどうしたら良いのでしょうか。
不幸にして起ってしまった事故が医事紛争に至らないために，信頼関係を構築するには？
ディスカッションを通して，どんな些細なことでも講師陣がお答えします。
きっと明日からの臨床に役に立つこと間違いなし。奮ってご参加下さい！

講演内容　診療録に必要な内容とは？（カルテの記載について…）
医事紛争例から学ぶ（医事紛争を起こさないための心得…）
BS 製剤，抗血液凝固剤服用患者の歯科処置について
下歯槽神経麻痺の対応について

主催　東京歯科大学同窓会

若手同窓支援セミナー申し込み用紙（FAX）

卒業年度　平成　　年卒　氏名　　TEL

連絡先住所

東京歯科大学同窓会事務局　FAX　03－3264－4859